

年次報告書

2012

FOR A WORLD WITHOUT
CHILD SEXUAL TRAFFICKING
AND EXPLOITATION

209 days in
INDIA

本木が
インド滞在209日で
見てきたもの。

Helping hands in
CAMBODIA

成長から手にした未来。

闘い抜く、
少女たちと
とともに。

特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 2012年度年次報告書 / 2013年6月発行

団体名

特定非営利活動法人かものはしプロジェクト

住所

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-1-10 代々木中央ビル102号室

新住所

〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
(2013年7月13日以降)

*電話番号等の詳細はWebサイトにてご確認ください。

E-mail

info@kamonohashi-project.net

twitter

@kamonohashiprj

facebook

kamonohashi project/かものはしプロジェクト

Webサイト

<http://www.kamonohashi-project.net/>

*かものはしプロジェクトは、プライバシー保護のため、被害者が特定される写真は使用いたしません。

*この報告書で使用している写真の一部は、カンボジアとインドの女の子ですが、実際の被害者ではありません。

この年次報告書は、
サポートしてくださっている
印刷会社のご協力により
無償で印刷して
いただきました。

2012

FOR A WORLD WITHOUT
CHILD SEXUAL TRAFFICKING
AND EXPLOITATION

Cover Story



彼女は、我々のパートナー団体であるコルカタシャンプドのトレーナーです。コルカタシャンプドは、インドの西ベンガル州のコルカタで、ダンスや体の動きを通じて心の中に抱えた傷を治し、尊厳を持って自分らしく生きることを支援するNGOです。コルカタシャンプドのトレーナーの多くは人身売買の被害者や社会に搾取された女性たちです。自分自身の深刻な被害の傷を乗り越え、今は被害者の傷を癒す側として活躍しています。私たちは2月にコルカタシャンプドを訪問し、インタビューや、リハビリテーションプログラムを体験する機会を得ました。しなやかに、しかし未だに自分の心の傷と向き合いながら、そして過去と闘いながら、コルカタシャンプドの活動に懸命に従事している彼女たちから、多くの学びと勇気をもらいました。

Contents

02	目次
03	2012年度のお礼とご報告
04	かものはしの2012年度
05	村田のインド出張レポート
06	
10	インドでの活動報告
14	特集1 209 days in INDIA 闘い抜く、少女たちとともに。 本木がインド滞在209日で見てきたもの。
18	
26	
30	
31	特集2 Helping hands in CAMBODIA 成長から手にした未来。
32	
33	
34	カンボジアでの活動報告
35	日本での活動報告
38	皆さまからの応援メッセージ
	評議員・顧問からのメッセージ 報告書の制作に関わってくださった方々
	かものはしを支えてくださった企業・団体の皆さま
	企業との主な連携事例・メディア掲載・受賞歴
	かものはしスタッフ
	財務会計報告・計画
	かものはしの「社会的責任」への取り組み

この年次報告書は、サポートしてくださっている
印刷会社のご協力により無償で印刷していただきました。

2012年度のお礼とご報告

いつも当団体をご支援くださり、誠にありがとうございます。皆さまのおかげで、カンボジアの状況が引き続き落ち着いており、インドでも本格的に活動を始めることができました。

2013年2月、インド出張に行き、酷い状況を目撃しました。

14歳で売春宿に売られた子がいました。売春宿のオーナーが売春を強要するため、熱したアイロンを体に当てられ悲鳴を上げたけれども、その声は誰にも届かず、来る日も来る日も虐待され続けています。昔カンボジアで見た子もいました。昔カンボジアで見ただけで、私はいま印度にいます。そして私は最前線で人身売買と闘う人たちと一緒に立ち向かっています。被害にあいつたちは、最も危険を顧みず活動を続ける印度のNGOの方たちです。

日本にいる皆さまからするとこの印度の売春宿はとても遠いかもしれません。でも、皆さまの想いと力は確実に、最前線までつながっています。報告書の作成のために原稿を書いていて改めてそう感じました。最前線にいる少女たちと仲間を代表してお礼を申し上げたく思います。ありがとうございます。これから印度に頑張りますので応援よろしくお願いします。

どうぞよろしくお願いします。

2012年度、カンボジアにおける当団体の事業、そしてカンボジアの国そのものが新しい段階に入ったように思える印象的な変化がありました。最も嬉しい変化はくれるのは仲間たちです。サポートの皆さまがかものはしを支えてくださるおかげで、私はいま印度にいます。そして私は最前線で人身売買と闘う人たちと一緒に立ち向かっています。被害にあいつたちは、最も危険を顧みず活動を続けるコムニティファクトリーに通う女性たち一人一人が、職場やスキルの成長を通じて力強く自分の人生を選択するようになってきたことです。また、それに加えて10年前に比べても私たちが取り組む問題の規模が小さくなってきたこと、それを裏付けるかのようにカンボジアの国が大きく成長し続けていることも嬉しい変化です。

ただ、手放しで喜べるわけではありません。依然として国や行政基盤は強固で、社会の偏見とも闘い続ける被害者の方たち、子どもが売られない世界をつくるために最前線で危険を顧みず活動を続けるコムニティファクトリーに通う女性たち一人一人が、職場やスキルの成長を通じて力強く自分の人生を選択するようになってきたことです。また、それに加えて10年前に比べても私たちが取り組む問題の規模が小さくなってきたこと、それを裏付けるかのようにカンボジアの国が大きく成長し続けていることも嬉しい変化です。

ただ、手放しで喜べるわけではありません。依然として国や行政基盤は強固で、社会の偏見とも闘い続ける被害者の方たち、子どもが売られない世界をつくるために最前線で危険を顧みず活動を続けるコムニティファクトリーに通う女性たち一人一人が、職場やスキルの成長を通じて力強く自分の人生を選択するようになってきたことです。また、それに加えて10年前に比べても私たちが取り組む問題の規模が小さくなってきたこと、それを裏付けるかのようにカンボジアの国が大きく成長し続けていることも嬉しい変化です。

この年次報告書は、サポートしてくださっている印刷会社のご協力により無償で印刷していただきました。

2012年度。かものはしのはしの。

インドでの第一歩を
確実に踏み出した

2010年から調査を開始し、理事会・評議員会で協議を重ね、2012年6月の総会で100人以上の会員の皆さまと議論して、インドで活動を行う意思決定が下されました。2012年度から2014年度は「インドにて基盤を築く期間」と位置づけ、同分野で活動する6団体と短期的なパートナーシップを組んでプロジェクトを行なながら、インドやこの問題に対する理解を深めています。2013年2月にはカンボジア・日本より理事・マネジャーが印度入りし、今後の方針を話し合いました。

2018年までにマハラシュトラ州（州都ムンバイ）と西ベンガル州（州都コルカタ）をつなぐインド最大の人身売買のルートを大幅に縮小することに挑戦します。

カンボジアでの活動も

おおむね順調

活動を始めた当初に比べると売られる子どもの数が大きく減ったカンボジアでは、

事業を急激に成長させるよりも、現地の人だけで持続的な活動ができるよう支援することに主眼を置いています。コミュニティアクターでは現在130人の女性が働き安定した収入を得ています。売上は前年度比で2倍に伸び、事業の黒字化及びカンボジア人主体の経営体制構築に向けて確実に進んでいます。警察支援事業では従来の警察訓練やホットラインの支援に加えて、内務省本省と協力し、地方警察の人身売買への対応力を評価する活動を開始。内務省がより強いイニシアチブをとれるよう支援します。

サポートナーは2200人へ
から2900人へ

これら全ての活動を支える資金調達活動も順調でした。問題解決の仲間となってくれるサポーターは2200人から2900人へと増えました。インドでの事業を拡大するため一層のネットワークと資金が必要であり、2013年度は1億1千万円の資金調達と748人のサポーター増加を目指します。

村田のインド出張レポート

今年2月、インドで活動する本木に共同代表の村田、青木と日本事業統括の山元が合流。インドの問題の実情を理解し戦略を立案するため2週間滞在しました。



被害者に話を聞く

インドでまず最初に訪問したのは人身売買の被害者が保護されている施設です。ある女性は「知り合いにもらった飲み物に薬を盛っていて、気付いたら売春宿でした。叩かれ殴られ売春を強要させられた」と泣きながら話してくれました。女たちがあまりに酷い状況で強制的に働かされ傷つけられてきた話を聞いて、その後食事が喉を通りませんでした。話をしてくれた女の子に、同情したように接しても相手を更に傷つけてしまった。正直どう反応をしたらいいのか困ってしまった」と泣きながら話してくれました。女の子たちがあまりに酷い状況で強制的に働かされ傷つけられてきた話を聞いて、その後食事が喉を通りませんでした。話をしてくれた女の子に、同情したように接しても相手を更に傷つけてしまった。正直どう反応をしたらいいのか困ってしまった」と泣きながら話してくれました。女の子たちがあまりに酷い状況で強制的に働くのが原因の一つだという風にも感じ、同じ女性として憤りを感じました。

改めて決意しました

私たちには何ができるのだろう。あまりにも大きな問題に打ちのめされた旅でもありました。深刻で、複雑で：現地の優秀なNGOがこれだけ頑張つても未だ多くの問題が残っているのです。自分たちは何ができるのだろうか。夜な夜な私たちは議論を繰り返し、問題の重さに押しつぶされそうになっていました。

そんな時に、ある村で被害者の少女と出会いました。彼女は頑張っていました。生き抜こうとしていました。加害者と、加害者を許容する社会と戦う彼女が勇気をくじきました。「この小さな身体で戦う少女を一人にしてはならない。まずは彼女たちのそばにいること。彼女たちを支えること。それがスタートだ」と。被害者をこれ以上出さないために、もっと努力することを改めて決意しました。

パートナーNGOとの議論

2013.2/3-16

REPORT ON
VISIT TO INDIA

かものはしの戦略

子どもを買った人が処罰されることが当たり前の社会をつくります。現状では子どもを買っても処罰されないため、この闇のビジネスに手を出す人は後を絶ちません。そこで、警察や裁判所がしっかり機能するように、警察の捜査研修、救出支援、裁判支援などをていきます。子どもや女性を村からさらってくる「人さい」、売春宿のマネジャーやオーナー、顧客を連れてくる仲介人などを適切に処罰することで、この罪を犯す人が減っていきます。

1

子どもを買わせない仕組みをつくる。
そのために加害者が処罰されることが当たり前の社会をつくります。

2

子ども・女性たちが被害にあわずに暮らせるようにサポート。
被害にあった子ども・女性たちが社会に復帰し自立できるようにサポート。

3

子どもが売られない世界をつくるため仲間を増やし、協力を促します。

子どもたちが教育を受け、大人が仕事をできる社会をつくります。被害にあった女性たちの心の傷を回復し、経済的に自立できるようにサポートしていきます。

1、2を現地のNGOや政府と協力しながら実行すると同時に、その活動に日本から協力し、支えてくれる仲間を募ります。これらが一体となって、子どもが売られない世界をつくる生態系を形成します。

ともに。少女たちと 闘い抜く、

救出されても
いばらの道が続く

この売春宿にいた50人の女性・少女たち「救い出される」ことに同意したのはたった10人。どうしたことなのだろうか? 救出によって「人生はリセット、ゼロから

売春宿へ突入
少女達と対面

4人のNGOスタッフと10数人の警察官が売春宿の細い階段を駆け上る。2階には広間があった。客が少女たちを選ぶ場所だ。突入に驚く売春宿のマネジャーや客引きを無視して奥に進むと、ベッドがぎりぎりにつけ込まれた小さな部屋が並んでいた。3階はコンクリートの打ちっぱなしで、鋼鉄の扉がついた部屋がいくつもあった。毎晩少女たちは、そこで鍵をかけられて眠る。奥に怯える3人の少女を見つけ出した。壁が敷かれたここも通り抜け、3階に上がる。何年も洗っていないであろう汚れたマットは大きな棺桶のよう見えてならなかつた。電気はなく真っ暗。声を張り上げ、懐中電灯で照らしながら少女を探す。闇の中天井を入念に調べると、2階の天井に隠し部屋が見つかった。中には3人の少女が隠されていた。

10人の少女たちが救い出された。そのうちの1人は妊娠していた。

209 days in INDIA

本木が
インド滞在209日で
見てきたもの。

インドの性的な人身売買とは

社会の間に属するこの問題の統計をとることは困難ですが、インドで性産業に従事する女性・子どもの数は100万~300万人といわれています。その中で、人身売買の被害者は数十万人含まれると推測されており、少なくとも26%の人が詐欺・誘拐など自らの意思に反した理由でこの仕事に就いたという調査結果があります*。郊外の農村で横行する「人さらい」は、10歳未満の少女に手を出すこともあり、1万円ほどで買い取ったり、または誘拐したりした少女を10万~20万円で売春宿に売り渡します。売春宿の客は、数百円から千円ほどで彼女たちを買います。インド人の男性はふくよかな体型を好むため、若く痩せている少女には家畜飼育用のステロイドを摂取させ、無理やり体を成熟させることもあります。※THE FIRST PAN-INDIA SURVEY OF SEX WORKERS 2011

2012年1月、僕はインドの首都ニューデリーの売春宿からの少女救出に参加した。現地NGOのレスキュー・プロジェクトは、数カ月前から捜査員が客のふりをして売春宿に通い、内偵を繰り返してきた。何度も通わないと、少女たちは何も話してくれない。「本当のこと」を客に話したら熱した鉄の棒で叩くと、固く口止めされるのだ。それでも捜査員は少しづつ少女たちの心を開き、「ここに売られた」と事実として「ここから出たい」意思を確認する。救出計画で最も気を遣うのは、不良警察官から売春宿への情報漏れ。印度警察はこの問題に積極的に取り組んでいますが、中には売春宿と癒着した不良警察官もいる。踏み込んだ売春宿がもぬけの殻だったり、武器を持って待ち構えられ危うく命を落としかけたこともあるたという。調査を繰り返しやっと摘発にこぎ着けた1月12日。時間がかかってしまったためNGO捜査員は「情報が漏れないか心配だ」と焦りを募らせていた。

突然に救出のゴーサインが出て、全員に緊張が走った。車を急発進させ、ニューデリー駅近くの売春宿が立ち並ぶ場所「GBロード」へ向かう。車も人も牛も犬もリキシャ(人力車)も混雑してなかなか前に進めない。運転手はクラクションを激しく何度も鳴らしながら強引に車を進めた。

ニユーデリー
売春宿から少女を救出

再出発だ、よかつたね」ということにはならず、むしろ苦しみが増すかもしれない

ことを彼女たちは知っているからだ。精神的にも肉体的にもぼろぼろの状態で、圧倒的マイナスからの再スタート。ふるさとへ戻っても、村人は彼女たちを「汚い」存在として差別し受け入れを拒絶するという。私はそのことを深く知りたくて、印度東部の小さな村へ向かった。

自然が豊かで、みな土でできた家に住み、質素な生活を送っている村。道も舗装はされていないものの、常に人の手が入ってきていいになっている。この村の少女、サクシー（仮名・15歳）は叔父夫婦に売られた。気づけばホテルの部屋に閉じ込められて何人の男性に身体を犯され、はるか1500km離れたムンバイの売春宿に売られた。その1年後にNGOと警察によつて救い出されたのだった。

サクシーはNGOの施設でカウンセリングや職業訓練を受け、半年後に村に戻った。そこには叔父夫婦が安穏と暮らしており、叔母は「主人は悪くない。あの女にそそのかされたんだ」と泣いて日々を回ったという。村はサクシーを「売春」という汚いことをやつていた汚いもの」と捉え、彼女と家族のほうを責め立てた。家族はサクシーをかばおうとしたが村の圧力は激しく、家族がつらい思いをするのを見てサクシーはさらに自分を責めた。自分のふるさとに自分の居場所はもはやなかった。

こみあげてくる怒りに、自分が壊れてしまいそうになる。

サクシー自身、「身体を売るような女性は悪い女だ」という考えが心の奥底にあるから自分自身を否定していた。叔父への怒りや憎しみもある。後から後からこみ上げてくる怒りが、いつか自分を壊してしまうのではないかと怯えていた。この憎しみや怒りをどうにかコントロールしたいけれど、叔父夫婦は彼女の家から50mの所に住んでいて、片時も忘れることができない。村から出て、誰も自分のことを知らない土地に行きたい……でもそこでどうやって生きていくことができるのだろう……こうした絶望から、自ら売春宿に戻ってしまった女性もいる。

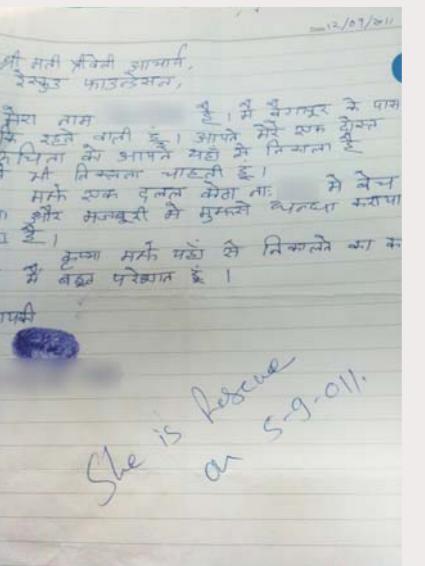
NGOがサクシーを継続的にサポートした。村のコミュニティに入り、サクシーは汚れていないこと、悪くないことを村人に理解させていった。支援によって小さな

それでも、 解決はできる

希望のない話に聞こえるかもしれない。この問題には貧富の格差、女性への差別、出稼ぎ、汚職など様々な要因が絡み合っている。その深刻さ複雑さを思う時、正直、自分が今やっていること、やろうとしていることは無駄なのではないか？」と絶望に襲われることがある。

それでもそんな時に思い出されるのは、鬪っている仲間たちの顔。10数年前、自分たちの話をずっと聞き続けることができるのは稀だ。毎日のように売春宿に通う捜査員たち。そして、想像がつかないかもしれないけれど、哀しみをたたえた「被害者」ではなく、闘い抜くことを深く決意した少女たちがいる。前述したように家族の元に戻っても彼女たちは安定した幸せな環境に暮らせるわけではない。それでもがんばって毎日を生き、時には自分と同じような想いを他の少女にさせないために加害者と闘うことも引き受ける。そんな彼女たちの姿は本当に僕を勇気づけてくれる。

かものはしがカンボジアで活動を開始してまだ10年。でもこの10年で、カンボジア



売春宿に閉じ込められた被害者からレスキューを求める手紙。パートナーNGOであるレスキューファンデーションの捜査官に届けられた。その後、無事にレスキューがされた。写真の右下には「She is rescued (彼女は無事助け出された)」とあるが、多くの少女がレスキューを今も待っている。

雜貨店を開き、経済的に自立して、家族を助けることができるようになつたサクシーは少しずつ自尊心を取り戻し、なんとかふるさとの村で生活している。しかし支援を継続的に受けることができる女性は稀で、そうでない女性は村を去り、唯一での数自体も圧倒的に不足しており、女性50人に対しカウンセラーが1人しかいないことが多い。また、NGOでカウンセリン グやリハビリテーションを行うスタッフも、ちょっとしたことで傷が開いてしまうことがある。また、NGOでカウンセリン グやリハビリテーションを行うスタッフの数自体も圧倒的に不足しており、女性50人に対しカウンセラーが1人しかいない シーは少しでも自尊心を取り戻し、なんとかふるさとの村で生活している。しかし支 援を継続的に受けることができる女性は 稀で、そうでない女性は村を去り、唯一で も、ちょっとしたことで傷が開いてしまう ことがある。また、NGOでカウンセリン グやリハビリテーションを行うスタッフ の数自体も圧倒的に不足しており、女性50 人に対しカウンセラーが1人しかいない ケースもある。



西ベンガル州の農村。人身売買は、濃厚な人間関係のある村社会の中で起きる。



パートナー団体であるサンジョゴの代表のループさん（右から2番目の男性）とウマさん（真ん中の女性）。経験豊富な彼らから多くを学んでいる。

- 1** 2014年度まではインドに事業基盤を築く段階であり、「学び」の質と量をいかに増やすかが重要と考えています。小規模な取り組みをさまざまな形で行い「失敗」をも前提として事業を進めます。
- 2** インド最大の子どもが売られるルートであるマハラシュトラ州(州都ムンバイ)と西ベンガル州(州都コルカタ)に重点を置いて活動します。
- 3** 日本人1名(本木)をインドに駐在、後方支援として1名を日本に配置し、さらなる情報収集、パートナーNGOとの関係強化、現地スタッフの採用などを行います。

今後の展望

活動の資源・基盤を整える

現地での活動を開拓するため法人格の取得申請を行いました。2013年度中の取得が目標ですが、一般に「手続きには時間がかかる」と言われており、取得時期は見えていません。また当初はこれまで本木がほぼ一人で活動を進めてきましたが、2012年度途中からインド在住のプロボノがサポートに加わってくださり、何か事業を推進できました。

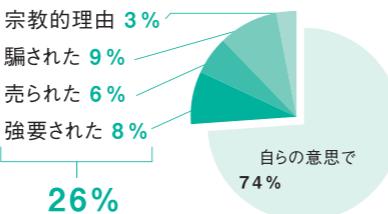
解し今後大きな提携をしていく準備ステップという位置づけです。(p.13のプロジェクトリストを参照)小規模プロジェクトを進めながら、それぞれの団体の代表と何度も深く議論できたことが収穫でした。



わかつてきたこと

被害者数

社会の間に属するこの問題の統計をとることは困難ですが、インドで性産業に従事する女性・子どもの数は100万~300万人といわれています。その中で、人身売買の被害者は数十万人含まれると推測されており、少なくとも26%の人人が詐欺・誘拐など自らの意思に反した理由でこの仕事に就いたという調査結果があります*。また、かものはしとレスキュー・ファンデーション共同で行った簡易な調査ではデリーの赤線地帯の性産業従事者のうち、20~40%が18歳未満であると推定されました。※出典:THE FIRST PAN-INDIA SURVEY OF SEX WORKERS 2011



この調査に回答できる状況にある女性が回答していることなどを考えると少なくとも26%が非常に高い強制力が働いたもで性産業に従事していることが言える

被害者の出身地域

南アジアで最も大規模な性産業の一つが存在するマハラシュトラ州。ここで救出された被害者の47%が西ベンガル州出身でした。両州は言語も文化も異なります。1,500kmの距離を越えて人身売買の被害に遭う女性や子どもたちがいるのです。

出典: Sanjog MIS (2009-2012)

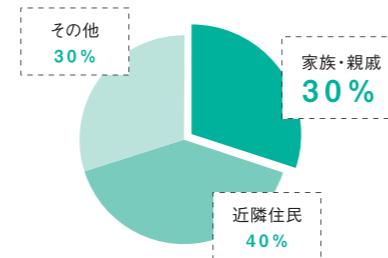
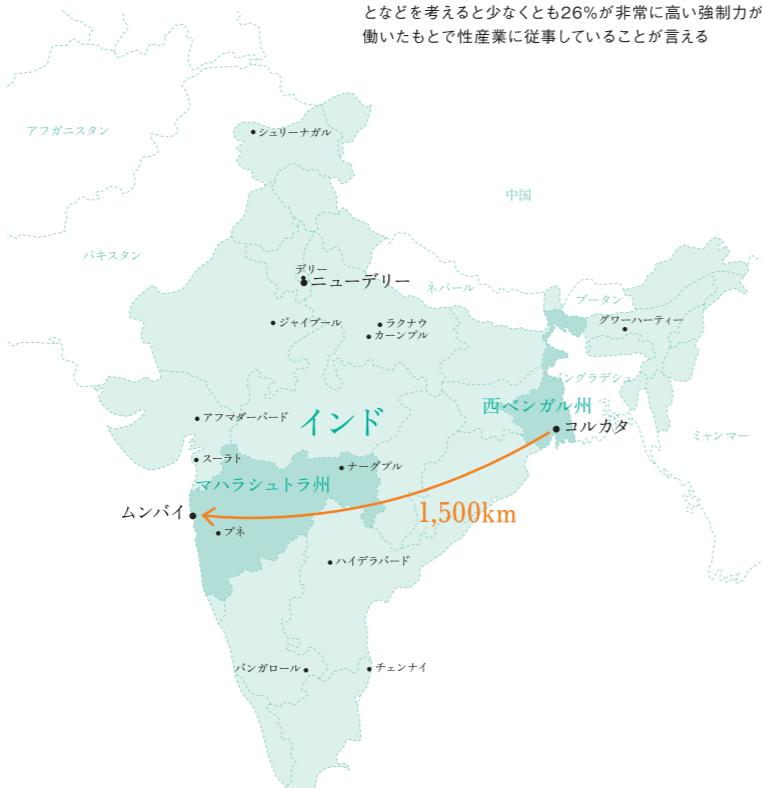


故郷から売春宿のある都市までの長い距離を電車に乗せられて運ばれます。中には、抵抗しないように睡眠薬や酔っ払わせられる子もいます。

加害者

人身売買は、①田舎やスラム街で「人さらい」が子どもや女性をだます・誘拐する、②都市部売春宿のマネジャー・オーナーが人さらいから子どもや女性を買う、③顧客に向けて子どもや女性を売りに出すという形で起こります。「人さらい」の3割は家族・親族、4割が同じ地域出身の人という調査結果があります。全く知らない誰かに誘拐されるのではなく、顔見知りの人、時には親戚にだまされ売られるのです。そのためには被害者の傷はより深く、また、裁判で加害者と闘うことは容易ではありません。

出典: Sanjog Sanyukt Snapshot



India

インドでの事業スタート。
6団体とのプロジェクト開始、65人の被害者を救出し、334人の警察官を訓練。

現地で活動する団体・人との関係を育てる

6つの団体とパートナーシップを組み、小規模なプロジェクトを2012年度にスタートしました。これは、お互いの活動を理解し、意思疎通に十分に時間をかけるべきと判断したためです。拙速に戦略を固定するより柔軟性をもつて事業を進めることで、現地での活動を進めることができます。しかし、現地で活動するデータの把握することは困難です。もとよりすべての情報を入手・分析することは不可能で、現段階では調査と事業展開を並行して進めるのがよいと考えています。

長期戦略の立案は2012年度中には完了せず2013年6月頃までずれ込む見通しです。かものはしだけで事業を行うのではなく、複数の現地パートナーと協働するため、意思疎通に十分に時間をかけるべきと判断したためです。拙速に戦略を固定するより柔軟性をもつて事業を進めることができます。しかし、現地で活動するデータの把握することは困難です。もとよりすべての情報を入手・分析することは不可能で、現段階では調査と事業展開を並行して進めのがよいと考えています。

印度という国、そして印度の子どもが売られる問題に対する理解、そこで活動しているNGOや政府に関するかものはしの理解は深まりました。現地NGOとパートナーシップを組んだため、生の情報を多く得られたことがよかったですと考えていました。しかし、現地で活動するデータの入手が困難であったり、因果関係が複雑なため得られた情報の分析は容易ではありませんでした。また現地で活動するNGOの同士の関係や国連の動きの背景も短期間で把握することは困難です。もとよりすべての情報を入手・分析することは不可能で、現段階では調査と事業展開を並行して進めることができます。しかし、現地で活動するデータの把握することは困難です。もとよりすべての情報を入手・分析することは不可能で、現段階では調査と事業展開を並行して進めることができます。

理解を深め、長期的な戦略を立案

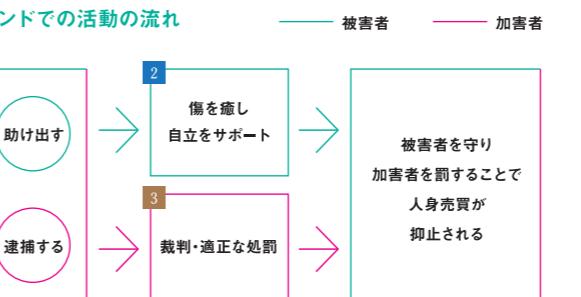
かものはしと現地パートナーの共同プロジェクトリスト

(完了したもの、進行しているもの、検討中のものを含む)

- 1 被害者を助け出し、加害者を逮捕する**
- 2 被害者の傷を癒し、自立をサポートする**
- 3 被害者に正義を、加害者の適正な処罰のための裁判支援をする**

- 4 現地で活動する組織の成長支援**

分類	プロジェクト名／団体名／地域	期間／状態	内容／成果／課題	予算(万円)
1	被害者のレスキュー活動 【レスキューファンデーション】 @ ニューデリー	2012年4月～ 2013年3月 完了	ニューデリーの赤線地帯より65人のレスキューに成功。目標は80人であったがおおよそなかった。2012年12月におきたレイブ事件が社会的に注目され警察はこの対応に追われたため人身売買の取り締まりに割く時間がなくなったためである。女性に対する性暴力を含め多くの事件にデリーオー警察は忙殺されている現状が伺える。また、レスキュー後の法的支援も同時に実施された。	362
1	警察幹部および実務者に対する捜査研修 【STCI】 @ マハラシュトラ州	2012年6月～ 2013年4月 完了	適切に人身売買を取り締まり捜査するための能力強化を目的として、334人の警察幹部および実務者に対して、各地2日間(合計12日間)の研修を実施。現在、この活動の成果につき簡易評価を実施中。	149
1 3	人身売買に対する「捜査・裁判」の現状および解決策に関する調査 【STCI】 【サンジョグ】 @ マハラシュトラ州／西ベンガル州	2013年7月～ 2014年3月 検討中	●マハラシュトラ州のムンバイでは近年、捜査の活発化・有罪判決率の上昇が見られる。これについて分析し、他地域へ展開できる成功要因の分析や、捜査・裁判をさらに強化するための必要な活動を検討する。 ●売られる子どもの出身地である西ベンガル州では「人さらい(trafficker)」に対する逮捕・起訴・有罪はほとんど起きていながら現状である。その要因を分析するとともに、改善するための解決策を検討する。	
2 3	裁判に参加する被害者支援のモデル開発 【コルカタシャンプ】 【STCIとの共同プロジェクト】 @ マハラシュトラ州／西ベンガル州	2012年10月～ 2014年3月 進行中	有罪判決に重要な被害者の証言は、時に被害者にとって多大な心痛と困難をもたらす。被害者の心がトラウマから解放され、強きを取り戻すこと重要なことから、被害者の心理回復を支援する。2012年度は関係者および被害者への調査を実施した。例えば、「ここに上げる怒り」をどうコントロールするかが被害者にとって重要なテーマであることがわかった。2013年度はその支援モデルを被害者に提供し、モデルの改善を試みる。	258
3	レスキューファンデーションの法務活動の支援 【レスキューファンデーション】 @ マハラシュトラ州	2013年6月～ 2014年5月 検討中	レスキュー活動をし、また保護施設で被害を受け入れるレスキューファンデーションの法務活動を支援する。レスキュー時点での同行、被害者の送還手続き、裁判時点での被害者および検察官へのサポートなどが弁護士等によって実施される。	201
3	特別裁判所に対する緊急支援 【STCI】 @ マハラシュトラ州(特にムンバイ)	2012年11月～ 2013年3月 完了	2012年10月にムンバイにて大規模な摘発が行われ、300人以上がレスキューされた。裁判所の処理能力を超える規模となり、裁判所からパートナー NGO の STCI に支援要請がきた。かものはしは資金面を、STCI が人員面を担当し緊急支援に応じた。具体的には100人以上の被害者供述調書の作成を行い、その後の被害者サポートを実施した。	41
2	農村部でのリハビリテーションおよび経済的自立支援モデルの開発 【サンジョグおよびGGBK】 @ 西ベンガル州・南24バルガナス地区(農村部)	2013年7月～ 2014年3月 検討中	被害者の多くはレスキュー後自分の村に戻ることを希望する。しかしながら、村においても差別・偏見が多く、また、貧困状況であるため、継続的なカウンセリング、経済的な自立を支援する必要があるが、これに成功しているモデルはほぼない。そのため、モデルを開発する。	
2	被害者の都市部での経済的自立支援モデルの開発 【ドリッティファンデーション】 @ ムンバイ	検討中	都市に残ることを希望する被害者に対する経済的自立支援、および保護施設滞在期間中、被害者が現金収入を得、施設を出た後の経済的自立を促すためのモデルの開発を行う。	
4	有望なNGOの発掘および資金調達活動支援 【ダスラ】 @ マハラシュトラ州／西ベンガル州	2012年12月～ 2013年9月 <small>(その後、2016年度まで継続支援予定)</small>	マハラシュトラ州および西ベンガル州の人身売買に関する基礎調査をし、成長性が高く問題解決に貢献可能なNGOの発掘をする。さらに発掘されたNGOをインド国内外の企業や富裕層に紹介し、最高3,000万Rs(約6,000万円)の資金調達を行い、選定された1団体への集中的な支援を3年間実施する。	4年合計 822万円 1年目は282万円、 その後3年に渡り 毎年180万円
4	農村部で活動する8つのNGOの能力向上支援 【チャンジメント】 @ 西ベンガル州	2012年11月～ 2013年3月 完了	たくさんの子どもが売られ、誘拐されている農村部で活動するNGOは重要な役割を果たしている。しかし、多くのプロジェクト立案能力の不足、資金難などの課題を抱えている。そこで、これらの能力強化を実施した。またネットワークを強化した。	87
4	農村部で活動するGGBKに対する緊急支援 【GGBK】 @ 西ベンガル州・南24バルガナス地区(農村部)	2013年3月～ 2013年6月 進行中	インド全国でも有数の被害者の出身地域にて活動するNGO。被害者に対する経済、裁判、カウンセリング支援を継続的に行っており、重要な役割を担っている。しかしながら、ヨーロッパ経済危機により資金調達が困難になり、数ヶ月に渡り無給で活動を行っていた。限界に近づき組織が崩壊する段階であったため、4ヶ月間の緊急支援を行った。	42
4	成長性が高いサンジョグに対する組織支援 【サンジョグ】 @ 西ベンガル州	2013年7月～ 2014年6月 検討中	サンジョグは2012年から新しく発足したNGOである。メンバーは人身売買の取り組みに関して10年以上の経験を持つ。戦略的な発想としっかりとモニタリング・評価を強みとして有し、問題解決に深く貢献するだけの成長性がある。その組織成長を支援する。	



1 2 3 が持続的に社会の制度として機能することを目指します。そうすることで、子どもを売り買ひする人たちが適切に処罰され、犯罪者予備軍に対する抑止力が働きます。万が一被害に遭ったとしても、すみやかに救出され社会に戻ることができます。

赤線地帯において、今も売春を強要されている子どもや女性たちを助け出します。同時に人身売買業者を逮捕します。2012年度はレスキュー・キャンペーンを支援し、65人の被害者を救出しました。また、334人の警察幹部が適切に救出・逮捕を行ったための訓練をSTCIを通じて実施しました。

1 被害者を助け出し、加害者を逮捕する

肉体的にも精神的にも深く傷を負った被害者は、カウンセリングや治療、リハビリテーションが必要です。また生きていくためには収入が必要なので、職業訓練や仕事の斡旋も行わなくてはなりません。傷を癒し、自立をかなえる過程は容易ではなく、時間もかかります。一人一人の子ども、女性を継続的に支援していく必要がありますが、現在行われている支援の質も量も十分とは言えません。かものはしではどのようなやり方が効果的なかを見極めるため、2013年度より試験的に農村部でのリハビリテーションと収入創出のサポートを開始する予定です。

3 被害者に正義を、ための裁判支援をする

かものはしでは、人身売買の過程に関わったすべての加害者が適正な法の裁きを受け、被害者に正義がもたらされる仕組みづくりが大切だと考えています。例えば、インドでは売春宿のマネジャーが処罰されることはあるとしても、子どもを売り飛ばし収益を得た「人さらい」が適正な裁きを受けることは稀で、これでは問題を根本的に解決することはできません。人身売買に関わった者すべてが適正な法の裁きを受け、かつ、裁判の過程で被害者がさらなる心の傷を負うことのないよう支援

1、2、3に関する活動をしており現地社会を熟知しているNGOや政府を支援することで、より効率的・効果的に活動を行います。第一に現地NGOを支援する専門家や他のドナーと協働します。またNGO間、政府とNGO間の効率的な連携をより多く生み出すための活動を行います。さらに効果的な活動を行うための調査分析を重視します。



多くの被害者の出身地域で活動するNGOとの対話。被害者を守る活動をしているため、加害者から脅迫を受けることが多いという。

裁判における最も大事な証拠のひとつは被害者の証言です。しかし、裁判で証言をしないよう加害者から脅迫を受けたことはあります。本来、捜査や裁判は、正義と秩序を回復するためのプロセスです。しかししながら少女たちは、ときにこれらのプロセスを通して新たな精神的被害を受けたり、名誉や感情を傷つけられながら、自らの正義の回復のためにとひたすら耐えていかなければなりません。

私たちには、被害者に「社会のために犠牲になれ」と言うべきではありません。当然、被害者にとって、自分と家族の安全や収入があることが第一のですから。しかし被害者の中には「自分のような被害者をもう生み出したい」という強い想いを持つ裁判に参加する人もいます。安全や収入など、基本的な生活基盤が整ってきて初めて「同じ苦しみを抱く事が大切だと考えています」。

裁判における最も大事な証拠のひとつは被害者の証言です。しかし、裁判で証言をしないよう加害者から脅迫を受けたことはあります。本来、捜査や裁判は、正義と秩序を回復するためのプロセスです。しかししながら少女たちは、ときにこれらのプロセスを通して新たな精神的被害を受けたり、名誉や感情を傷つけられながら、自らの正義の回復のためにとひたすら耐えていかなければなりません。

column

活動

column

していきたいと考えています。2012年度は裁判を支援するSTCIをサポートしました。2013年度は被害者の裁判の支援を行ながら、どうすれば有効な裁判

支援を行なうようになるのかを分析していく方針です。

裁判における最も大事な証拠のひとつは被害者の証言です。しかし、裁判で証言をしないよう加害者から脅

迫を受けていることもあります。

本来、捜査や裁判は、正義と秩序を回復するためのプロセスです。しかしながら少女たちは、ときにこれら

のプロセスを通して新たな精神的被害を受けたり、名誉や感情を傷つけられながら、自らの正義の回復のためにとひたすら耐えていかなければなりません。

裁判における最も大事な証拠のひとつは被害者の証言です。しかし、裁判で証言をしないよう加害者から脅

迫を受けていることもあります。

本来、捜査や裁判は、正義と秩序を回復するためのプロセスです。しかしながら少女たちは、ときにこれら

のプロセスを通して新たな精神的被害を受けたり、名誉や感情を傷つけられながら、自らの正義の回復のためにとひたすら耐えていかなければなりません。

Helping hands in CAMBODIA

私もファクトリーで
働きたい

成長から 未来にした 手にした

カンボジアの農村部では、家族の中に定職についている人が一人もおらず、不安定な家計をなんとかやりくりしている家族が少くない。農村では安定した収入の仕事を得ることは容易ではない。加えて、家族が病気になったり大家族が過ごす家の建て替えが必要になったりして、家計の苦しさに拍車がかかることが多い。

チエシップはそうした家庭に育った女性だ。彼女は自宅近くで野菜の販売、お兄さんは建設業手伝いをしていた。しかし収入は安定せず、家計はその日暮らしに近かった。不運にもお母さんが結核を患っており、治療費支払いが負担になっていた。

ある日、チエシップは近所の友人から、

かものはしが運営するファクトリーのことを耳にした。「決まった収入を得られる上、スタッフが親身になって悩みの相談に乗ってくれる」という。とてもすてきな職場に思えた。「私もファクトリーで働きたい」と伝えたところ、すぐにファクトリーのスタッフが訪問してくれた。ファクトリーでは、切実な思いで仕事を探している女性を受け入れている。

そのため、一家の収入や抱えている問題を調査するきまりになっているのだ。幸いなことにチエシップはファクトリーで働くことになり、2011年8月から通い始めた。

農村の仕事は、農繁期しか働けないこと

が多い。一時的な収入を得られるが、それだけで1年間生活するには到底足りない。蓄えが尽きれば、仕事を探しながら、なんとかやりくりしなければならない。ファクトリーの強みは、1年間通して働けるために安定した給料を受け取れることだ。チエシップが働き始めたと、家計は安定し、安心

した生活を送れるようになった。将来のことに目を向けられるようになった。

お母さんの容態が急変
1ヶ月間の休職

かものはしプロジェクトがカンボジアで運営するコミュニティファクトリーでは、たくさんの女性が生活雑貨をつくっています。製品は直販店やホテルで、おみやげとして売られています。女性たちは時につまずきながらも、ファクトリーで働く女性の家庭は裕福でないうえ、様々な問題を抱えています。

女性たちは時につまずきながらも、ファクトリーの仲間やスタッフに支えられて、日々成長しています。

いきいきと仕事に通う日々が、まもなく1年になる頃。何の前触れもなく大きな試練が一家を襲つた。闘病中のお母さんの容体が急激に悪化したのだ。それまで頑張ってきたお母さんが苦しむ姿に、チエシップは付きつきりで看病を始めた。もちろん仕事に行くことはできず、ファクトリーは1ヶ月間休職することにした。「この1ヶ月の間でお母さんが回復してくれたら」と願いながら――。

病」とされていたが、医療技術の進歩や衛生環境の改善により、現代では治療できるケースが多い。ところが十分な治療を受けられないカンボジア農村部では、依然として命を脅かす怖い病だ。チエシップは必死の思いで看病を続けた。お母さんを枕元ずっと見守つたり薬を買いに走つたり・・・。最愛のお母さんのために「できることはなんでもやろう」と、ただそれだけを考えていた。



励まし続けた スタッフと仲間たち

チエシップと家族は懸命にお母さんの看病を続けた。けれども、長い闘病生活でお母さんの体は相当弱っていたのだろう。残念なことに、お母さんの元気な姿を再び目にすることはできず、静かに息を引き取った。

貧しい生活の中でも、お母さんはやチエシップと兄弟をここまで育ててくれた。これからもずっと一緒に過ごすはずだったお母さんを失ったことは、これまで経験したことのない深い悲しみとして襲いかかった。毎日仕事に通っていたことがまるで嘘のように、体を動かすことさえつらかった。「お母さんが回復するまで」と考えていた休職期間が終わったが、とても仕事に出られる状態ではなかった。体調は悪くなる一方で、今度は自分が寝込んでしまった。休職を延長するほかなかった。

チエシップがお母さんを失ったうえに体調を崩してしまったと聞いたファクトリー



スタッフが農村の家庭訪問を行う様子。家庭の問題があったとき、無断欠席だったときなど臨機応変にスタッフが家庭を訪問して問題解決に協力している。

みんなは、心配でならなかつた。仲間が苦しんでいることに、心を痛めた。集まつて「彼女がもう一度一緒に働けるように、なんとか力になつてあげられないか」と話合つた。この時チエシップは「ファクトリーの友達に会えなくて寂しかつた。早く治して再び働きたい」と願つてたという。しかし、自分の力だけで事態を開ける体力も氣力もなかつた。

そこで、ファクトリーのスタッフがチエシップの家を訪れ、どんな状況なのかを把握することにした。ファクトリーを離れてそれほど日数は経つていなかつたが、彼女はすっかり痩せてしまい憔悴しきつてしまつた。カウンセリングにあつたカンボジア人スタッフは、当時の彼女について「長い看病の末にお母さんが亡くなり、彼女はとてもつらい状況に追いつめられていた。彼女の家は遠くて訪問には時間がかかつた。でも、ファクトリーで働くことは彼女の将来のために必要なこと。できる限りサポートしたいと思つた」と振り返る。

チエシップの村にはヘルスセンターと

呼ばれる施設があるが、十分な医療体制はない。病院のあるシェムリアップ市はバイクで50分近くもかかり、でこぼこの道路が多いことから通院は簡単ではない。治療にかかるお金のめども立つていなかつた。

スタッフは「お金がなくとも知恵を出しあれば大丈夫。今は大変だけど、将来のために頑張りましょう」と声をかけた。そして、

チエシップや家族と話し合つた。知り合いの看護師さんに彼女の家まで来てもらい、打つたりできることになった。

スタッフは、チエシップの復帰をサポートしたいと考えた。ただ、「一方的な支援だけでは彼女の自立につながらない」との思いもある。そのため彼女に「どうしたら苦しい状況を抜け出せるのか一緒に考えましょう」と伝え、できるだけ彼女自身の力で事態を開ける方法を探ることにした。治療の前払いやりくりすることにした。チエシップは周囲に迷惑をかけずに済むことを確認した。そのうえで、足りない分を給料のう」と伝え、

検査と治療を重ねるうちに、チエシップは少しづつ良くなつていった。スタッフや隣家の友人が彼女を訪問して励まし続けた。この友人を通してファクトリーからの連絡が届くようになり、彼女のモチベーションを保てるよう配慮した。こうしたみんなの支えの甲斐があつて、2ヶ月後にはファクトリーに戻れるまでになつた。チエシップは当時を振り安心した様子だつた。

チエシップは「ファクトリーから貰った甲斐があつて、2ヶ月後にはファクトリーに戻れるまでになつた。チエシップは当時を振り安心した様子だつた。

2ヶ月ぶりの出勤初日。隣家の友人と一緒に家を出た。しばらくは無理をせずに半日出勤とし、少しづつペースを取り戻していった。今では製品を染色する工程で以前と同じように元気に働いている。

チエシップは「ファクトリーに戻ってこられて本当に嬉しい。染色の工程でトレンナーになるのが今の夢。ずっとここで働き続けたい」と笑顔を見せる。トレーナーとはチエシップのスタッフで、これまでスタッフに昇進できた女性はたつた4人。彼女が高い目標を持てることは、誇りを持つて働けていることを物語つている。

彼女をずっと心配しながら見守つてきた友人は、「チエシップが帰ってきてくれて嬉しい。彼女は今、本当に張り切っている」と語る。スタッフは「すっかり元気をなくした時は、不安になることもあった。でも今、こうして楽しそうに働く彼女の姿を見ていると、私たちの方が元気をもらえる」と嬉しそうに話している。

ファクトリーに集う女性たちやスタッフは、本当の家族のように強い絆で結ばれている。困難に直面する人がいれば、みんなで知恵と力を出して解決の道を探る。そうした体験は、一人一人にとっての成長であり、ファクトリーが本当のコミュニティとして成長していると言える。

未来を夢見て成長する チエシップ

返り、「病気のときにスタッフが来てくれて心強かつた」と感謝する。



コミュニティ ファクトリー事業

カンボジアの農村では、子どもや女性たちが、貧しさを理由に、売られてしまう危険にさらされています。

かものはしは2006年、安定した仕事がなく、家族が食べていけない農村に、生活雑貨を作る工房、コミュニティファクトリーを立ち上げました。

工房は、女性を雇い、自立できるよう手助けをします。

これは子どもたちが売られない仕組みを作る一環です。

女性たちが働くだけでなく、

自身の人間的な成長を目指せる環境になっています。

事業実施期間 2006年～

実施場所 シュムリアップ州クチャ

対象 最貧困層の女性たち



働くひとたち



コミュニティファクトリー躍進を支えた
インター・ボランティアの活躍

ショッピングスタッフになった
希望の星、レイ



コミュニティファクトリー事業が大きく飛躍できたのは、インター生やボランティア、プロボノの方々など、カンボジアを訪れて全力を尽くしてくれた日本の皆さんのおかげです。ファクトリーのガイド役をはじめ、生産や販売の改善、カンボジア人マネジャーの訓練、商品データベース構築に至るまで、たくさんの仕事をこなしていただきました。NPO法人クロスフィールズの皆さま、高橋実枝さん、井上美鶴さん、新保隆之さん、桑原ひとみさん、清水梢さん、瓜生原琢実さん、齊藤祐輔さん、甲斐雄一郎さん、谷口香津郎さん、本当にありがとうございました。

2012年6月に、カンボジア最多のお土産屋さんが集まる観光名所「オールドマーケット」に、直営店をオープンしました。この直営店のショッピングスタッフとしてデビューしたのが、ブロン・レイです。彼女は、ファクトリーの創業当初から工房で働いてきました。工房からショッピングスタッフに抜擢されたのは、レイが初めてです。彼女は沢山の候補者の中から、厳しい選抜を勝ち抜いて採用されました。英語に苦労しながらも、日々多くのことを学んでいます。今後も、レイのように、工房からショップへと活躍の場を広げる女性が増えることを期待しています。



コミュニティファクトリーは2012年度、黒字化や、カンボジア人による運営の自立化について、着実な進捗が見られました。最も大きな変化は、女性が継続的に働ける職場になったことです。過去2年は離職率が30%を超えていましたが、2012年度は11%と大幅に減少しました。これは、給与水準や労働環境の改善、女性に対するきめ細かいカウンセリングの大きな成果です。年度当初の目標の20%を大きく上回りました。

黒字化への取り組みについては、前年度比で売上が201%と大きく成長し、黒字転換できる損益分岐点に近づきました。さらに、土産店の多い有名な観光地に直営店を出店しました。一方で今後

の課題としては、女性の雇用増加や各種トレーニングの導入で、支出が増えている点が挙げられます。自立化への一步としては、管理体制の強化や組織作りを予定通りに実行します。ただ、カンボジア人の次期代表を選ぶことなど積み残した課題があるので、今後の取り組みに力を入れます。そのほかの取り組みとしては、識字教室の拡大や英語学習の提供、新たな地域への工場進出といった成果が出ました。12月に専門家とともに実施した評価においては、女性の声を時間をかけて聞くことができました。ファクトリーの意義を再確認するとともに、就労環境改善などにも役立てていくつもりです。

働く女性は130人を超え、離職率も大幅に減少。売上も2倍に成長したが、自立・黒字化にはまだ課題が残る。

Cambodia

KPI(重要成果指標)振り返り

特筆すべき成果として、離職率の大幅改善、女性の雇用拡大、売上の急成長、生産量増加が挙げられます。また、出席率向上、識字教室の卒業率増加、生産性や原価率の向上、直営店での顧客単価の上昇、訪問者数増加も順調です。今後の課題は、予算と実績を比較しながら目標を確実に達成できるようにすることです。日本での販売が伸びず、全体売上は予算を下回りました。目標算出の精度を高めて安定した運営を目指す必要があります。

目標数値と実績表

KPI	目標	実績	前年度比	前年度実績
働く女性の数(人)	111	124	155%	80
出席率(%)	86%	90%	107%	84%
年間の離職率(%)	20%	11%	35%	32%
生産量(人/日)	10,860	11,128	159%	7,000
生産性(%)	90%	106%	177%	60%
売上(千円)	16,568	13,733	201%	6,846
ファクトリー訪問者数(人)	1,192	1,421	179%	794

今後の展望

2012年度に大きな飛躍を遂げたコミュニティファクトリー事業は、これからも成長を続けるつもりです。「運営の自立化」「事業の強みを活かす施策」「黒字化」を3本柱とします。運営の自立化では、カンボジア人に主体的に経営を任せることで持続的な運営を目指します。具体的には、①次期代表を選定して徐々に引き継ぐ②管理体制の強化③共同代表の青木からカンボジア人へ権限委譲を進めます。事業の強みを活かす施策とは、かものはしが蓄積したノウハウに磨きをかけ、カンボジアの他団体やインドでのパートナーなどに提供することです。そのために、①現行の業務マニュアルの改善②他団体と提携した訓練などの実施③日系企業の工場や他国の先進事例の研究に取り組みます。黒字化に向けては①直営店のさらなる出店②製造原価の割合や販売・管理コストを削減して損益分岐点を下げる③現地人主導の長期経営計画の年度内策定を目指します。

もう一つの
ファクトリーが
稼働開始。

2月



ファクトリーで働く女性が100人を超える、周辺には採用基準となる貧困家庭が減ってきました。そのため新規採用された女性は遠方から通勤することになりますが、大変であるばかりか危険もあります。そこで、10キロ離れた場所に土地を借り、新たに織物工房を始めました。今は20人弱の小さなファクトリーですが、2013年度にはより多くの女性が通えるようにしたいです。今後も、新しい地域に雇用の場を広げていくつもりです。



来年もみんなで頑張ろう!
148人が一つとなった日。

3月

力をあわせて頑張った甲斐があり、1年間の生産目標を達成できました!そこで、カンボジアで一番人気のビーチ「シアヌークビル」へ旅行に行きました。女性やその家族、スタッフなど総勢148人、バス4台を貸し切っての大規模な旅。初めて海を見る女性たちは大変興奮し、片道10時間2泊3日の強行日程の疲れも吹き飛び、パーティも盛り上がりました。ある女性がスピーチで「私に働く場所を提供してくれたものはプロジェクトには本当に感謝しています」と何度も繰り返したことが印象的でした。「来年も頑張ろう」と約束して帰路につきました。女性たちは家族のよう、かけがえのないコミュニティになったことを実感できました。

他にもこんなことが
ありました!



- チームリーダーのトレーニングが本格化 8月
- 識字教室の卒業者向けに、英語クラスの授業開始 8月
- 副収入、栄養改善のための農業教育開始 9月
- 天然染料の新商品販売スタート 10月
- ファクトリー訪問者急拡大、1年間で1,400人訪問

One year in the Community Factory

コミュニティファクトリーでの1年



専門家を入れて本格的な評価を
実施しました。

12月

日本人の専門家が訪れてください、ファクトリーの存在意義や問題点を明らかにする評価を実施しました。仕事の進め方や職場環境についてインタビューを行いさまざまなことが明らかになりました。安定した収入が得られ、さまざまなサポートをしてくれるファクトリーが、女性たちにとって欠かせないものであることがわかりました。一方で、「もっと給与を上げてほしい」という要望があることや、トレーニングやカウンセリングの意図が十分に伝わっていないこともわかりました。指摘をもとにより働きやすい職場にしていきたいと思います。

亀's VOICE

女性たちの率直な意見を得られたことは、客観的に活動をとらえ、活動の長期的な目標を見直す良い機会でした。コミュニティファクトリーは女性たちの生活と成長を支える場所です。主役である女性たちの声に耳を傾け、スタッフと女性たちと一緒に進んでいきたいという思いを新たにするきっかけとなりました。



現地日本人スタッフ
亀山菜々子

生産性が大きく改善し、
女性の給与増加へ。

4月

生産性向上を目指して、注文を受けてから生産するやり方から、販売量の事前予測に基づいて生産する方式へ変更しました。困難な生産と販売の調整をなんとか成し遂げ、6月に給与を約25%も上げることができました。



31人を採用。
多くの女性に働く場を提供。

6月

31人の女性を新たに雇用しました。採用に当たってはスタッフが各家庭を個別訪問して、綿密な調査をします。安定した収入や資産がないといった経済的状況に加え、社会的状況も重視します。例えば、家庭内暴力、親がない、家庭内不和などです。厳しい環境で暮らす女性は、危険な出稼ぎに出たり人身売買の被害に遭ったりしやすいからです。地域や生活の状況が多様な女性たちに働く場を提供することができました。

安心して長く働ける職場
として受け入れられた
コミュニティファクトリー。

7月

コミュニティファクトリー事業の大きな課題の一つは高い離職率です。2010年度、2011年度はともに30%に達していました。新しい人生を歩むために辞める人も半分程度いましたが、残り半分は後向きな理由です。いろいろと知恵を絞った結果が7月から始めて離職率は減少。年度末には11%にまで下がりました。給与アップのほか、カウンセリングや労働環境改善、出稼ぎの危険性を伝える講習会などが功を奏したようです。



オールドマーケットに
待ちに待った直営店舗を
オープン!

6月

3店目の直営店をカンボジア最大の観光地「オールドマーケット」にオープンしました。2011年度に始めた直営店はどこも好調ですが、最大の利益を上げています。開店には500万円を超える資金が必要でしたが、回収できるだけの売り上げが出ています。多彩な品ぞろえと客の目を引く魅力的な店作りが人気です。

関係者との連携や情報共有も欠かせません。子どもが売られる問題や子どもたちの連携による対応が、実際の状況に近い形で捜査研修を受けることで、巧妙化する新たな犯罪手法にも適切に対応できるようになります。



カンボジアの警察官への捜査研修にて参加者。



人身売買特別警察では訓練を受けた女性警察官も活躍し、検挙に着実に貢献している。

2013年度はこれらの地域において捜査研修を並行して実施することを目指しています。

加えて、これまでに実績を上げてきた取り組みはさらに充実させています。「実際の事件を題材にした捜査研修」「人身売買犯罪に迅速に対応するためのホットライン強化」「モニタリングに不可欠な犯罪データベース制度の強化」——などの支援を継続しています。特に捜査研修支援では、シェムリアップ、バンティメンチエイの両州に加え、プノンペン特別区やシハヌクビル州へ対象を拡大することで合意しました。人身売買特別警察が、実際の状況で捜査研修を受けることで、巧妙化する新たな犯罪手法にも適切に対応できるようになります。

関係者との連携や情報共有も欠かせません。子どもが売られる問題や子どもたちの連携による対応が、実際の状況に近い形で捜査研修を受けることで、巧妙化する新たな犯罪手法にも適切に対応できるようになります。

独自に実施した 実態調査

現在行っている支援活動が問題解決にどのような効果があり、今後何が必要なのかを見極めるために、定期調査を実施しています。2012年度は、昨今の多くの人身売買や性的搾取の実態に迫るための調査を行いました。

カンボジアの警察官の働く環境は、非常に厳しい状況にあります。給与や待遇などは、決して恵まれているものではありません。それでも関わらず、私たちが現場に足を運ぶと、彼らは週末や休日でも嫌な顔をせずに事件に対応しています。彼らが強い使命感を持って自らの任務を果たしているのは、LEAPの取り組みの最大の成果ではないでしょうか。近年は、従来の捜査手法では対応できない難易度を運ぶと、彼らは週末や休日でも嫌な顔をせずに事件に対応しています。

一方で、2010年頃から子どもの被害者が増加する「振り戻し」が起きています。業者が女の子をホテルなどに派遣するなどの手口です。旅行者が旅先で子どもを買う事件も後を絶ちません。犯罪手法の巧妙化に、迅速に対応できる警察官の育成組織作りが急務です。

容疑者が逮捕・起訴された後の刑事裁判の問題点を明らかにし、被害者が再び被害に遭わないようにするために職業訓練が適切に行われているかをチェックすることも重要でしょう。

こうした定期的な調査を通じて、カンボジア政府が自立して警察力を強化していくように支援したいと考えています。



かものはしが開発を行ったLEAPのウェブサイト

人身売買特別警察を各地に配置し、確かな成果を残してきたLEAPとは?

カンボジアでは1990年代後半から、子どもの性的人身売買や性的搾取が深刻な問題となっていました。背景には、法制度の未整備や警察官の能力不足がありました。そこでUNICEFの支援を受けて2000年、内務省内に、LEAP(正式名称:子どもの性的人身売買・性的搾取防止のための警察支援プロジェクト)が発足しました(発足当時の名称はLEASETC)。人身売買特別(少年保護)警察と呼ばれるチームが各州に配置され、捜査研修などを通じて高い能力を持つ警察官が次々に育成されています。こうした取り組みは、国内外から高く評価されています。かものはしへLEAPに参画することでさまざまな支援を行っています。

子どもの性的搾取犯罪に取り組む国連薬物犯罪事務所が主催する関係者会合。
内務省職員・捜査系NGO職員・国連職員らとともに、捜査研修で取り扱うべき項目・内容について議論中。

警察支援

4地域に拡大した捜査研修、そして内務省の能力向上に貢献するモニタリング評価事業を開始

子どもを買う人がいなくなれば、売られてしまう子どもをなくせます。

買う人や売る場所を確実に摘発できる仕組みが必要です。

そのためにはカンボジア警察の能力向上が不可欠です。

かものはしが2009年から、カンボジア内務省が国際機関と進める

警察訓練支援プロジェクト(LEAP)に加わり、

警察支援の強化に力を入れています。

事業実施期間	2009年~
支援地域	シェムリアップ州、バンテイエンチエイ州、 プノンペン特別区、シハヌークビル州
対象	人身売買特別警察

モニタリング評価については、2012年より、LEAPトップを務めるブルムソーカー内務省長官やLEAP関係者、国家警察の人たちと話し合いを続けてきました。評価制度の原案に関して、警察支援に力を注ぐ国連やNGO関係者と情報を共有し、さまざまな意見を取り込んでいます。連携する団体などと報告書を共有することで、有效地に活用してもらえると考えます。

シェムリアップ州での経験を糧に、実験的に実施しました。成果については、内務省と共同で作成した最終報告書にまとめられています。連携する団体などと報告書を共有することで、有效地に活用してもらえたことがあります。

モニタリング評価事業の実施

2013年現在、家族には経済的余裕が出てきましたが、まだ彼女を帰せる状況です。

リドという17歳の女の子は、バンティエンチエイ州出身。両親が離婚し、父親と2人の兄弟とともに暮らしていましたが、まもなくほとんどの時間をストリートチルドレンとして過ごすようになりました。

2004年1月8日、彼女はドムノータック孤児院に保護されました。彼女のケースにおいてもソーシャルワーカーは家族を探し出し、家族の元に戻ることができるよう調整をしましたが、「家族と過ごすのは危険である」という判断が下り、今もドムノータック孤児院で生活をしています。

勉強を頑張つて お医者さんになりたい

ドムノータック孤児院で暮らすようになつてから、彼女は勉強を頑張り「洋服を作りたい」という将来の夢を持てるようになりました。その夢を叶えるために服飾の職業訓練学校に通い、今はボイバードの街なかにある仕立て屋で職業訓練を受けています。

ドムノータック孤児院で暮らすようになつてから、彼女は勉強を頑張り「洋服を作りたい」という将来の夢を持てるようになりました。その夢を叶えるために服飾の職業訓練学校に通い、今はボイバードの街なかにある仕立て屋で職業訓練を受けています。



具体的には、組織基盤強化や資金調達のサポートの可能性を探っています。また、18歳になつて孤児院を卒業する子どもたちが社会へ羽ばたくための就職支援も引き続き検討していきます。

今後の展望

今後は孤児院運営の直接的な資金援助だけではなく、ドムノータック孤児院がカンボジア国内で資金を調達し、自立・安定した孤児院運営を行っていくことができるようになるために自立を促していく予定です。

態ではあります。

リドは将来、「お医者さんになりたい」という夢を持つており、学校でとても優秀な成績を取っています。また、ドムノータック孤児院の生徒会役員にも選ばれています。

孤児院支援

子どもたちが夢を持てるように、安心して暮らし、学べる環境を支援しています。

ドムノータック孤児院は、タイと国境を接する街ポイベトにあります。タイでの仕事を求める貧しい人が国中から集まる街。ここに暮らす家族と子どもも厳しい環境におかれています。孤児院では、人身売買の被害に遭った子どもや、遭う可能性の高いストリートチルドレンを保護し、食事や教育を提供しています。

実施期間	2009年～
実施場所	バンテイメンチェイ州ポイベト
対象	孤児院の子どもたち

46名の子どもたちに 安全な未来ある生活を

かものはしが2009年から支援しているドムノータック孤児院には、2013年3月現在、46人の子どもたちが暮らしています。それぞの子どもたちは労働目的の人身売買、路上生活、ドメスティックバイオレンス、家族の貧困という困難に直面し、安全に生活することができなくなつたために孤児院に保護されました。

かものはしが、彼らが安心して日々の生活を送り、将来的には家族の元で暮らす機会や、孤児院を卒業し自立する機会を持つことができるよう、また子どもたちが将来に希望を持てるよう、教育や職業訓練を受けるための資金面での支援を行なっています。

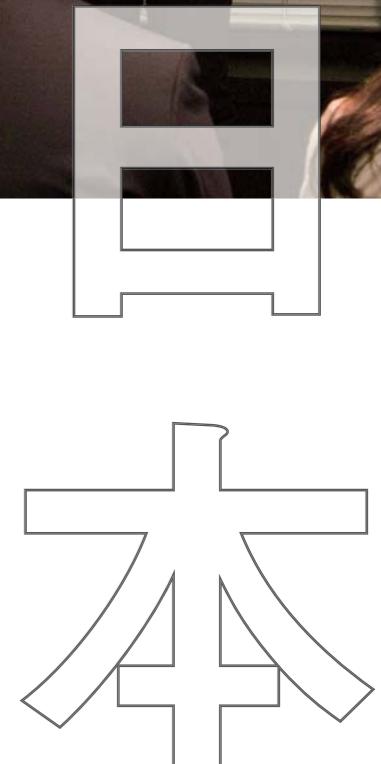




● Japan

ファンドレイジング（資金調達）・ 広報・経営管理

会員もボランティアも順調に拡大し仲間が増え
資金調達目標も計画を達成し、
現地活動を支えることが出来ました。



2012年度目標を達成 5つの重点施策に注力し

2012年度は5つの重点施策を定めて
注力してきました。【1／個人会員拡大戦略
の推進】【2／大口寄付者の戦略的獲得】
【3／ファンドレイザーリストの推進】【4／国
内助成金の獲得】【5／海外助成金への挑
戦】の5つです。

【1／個人会員拡大戦略の推進】

新しく650の方に会員になっていただき、合計2900人となりました。特に講演会やイベントをきっかけに会員になってくださる方が多く、顔の見える場で共感・信頼してくださることが嬉しいです。

【2／大口寄付者の戦略的獲得】

ご遺産のご寄付や贖罪寄付など今までとは少し違った形で大口のご寄付をいただくことができました。

【3／ファンドレイザーリストの推進】

約10人のボランティアの方々にご協力いただき、私たちだけではできなかつた資金調達活動を行なつていただきました。

【4／国内助成金への挑戦】

ボランティアの方々にご協力いただき、22件を申請、うち11件を獲得することができました。

【5／海外助成金への挑戦】

アメリカの財團を中心に調査し、アプローチを開始することができました。

『朝かも』や
『新しいイベントを開催
の皆さんが大活躍
のファンドレイザー』

2012年度から「ファンドレイザーリスト」という有志のボランティアによる資金調達

チームを発足させました。ボランティアの方のアイデアや人脈、力を使っていただき、様々な形で成果を出していただきました。例えば、株式会社バリューブックスさんとの古書回収キャンペーン「ほんのかけはし」は、ボランティア・ファンドレイザーの方のご尽力で実現しました。他にもイベント企画・開催していただいたり、お知り合いの企業さまをご紹介いたたりなど、私たちだけではできないことを支援してくださっています。

資金調達面では、目標対比102%の資金を集めることができ、現地の活動を計画通りに支えることができました。会員も2,900人にまで拡大し、各種ボランティアの参加機会も増え、ミッション達成に向けた財源・組織基盤を強化することができました。

かもカフェ！ 社会人ボランティアコミュニティ

“かもカフェ！”は、かものはしの社会人プロボノ／ボランティア組織です。「国際協力・ボランティアについて気軽な話から真剣な議論までできるカフェのような空間」をモットーに、350人以上のメンバーが時間やスキルを活かして、かものはしプロジェクトの問題解決のサポートをしています。

体制の変更を行いました。

2013年1月から、従来の4つのチームに分かれた活動を改め、サポートが必要なテーマごとにプロジェクトチームを結成し活動に取り組む形としました。現在までに20以上のプロジェクトが発足して、メンバーは自分の興味のあるプロジェクトに参加しています。

また、経験豊富なメンバーを中心に“かもカフェ！運営チーム”を発足し、プロジェクトの管理やコミュニティの情報発信を強化。初めての方にもスムーズに活動に参加していただけるようになりました。

いろいろなプロジェクトを実施しました！

事務作業などのボランティアとワークショップを通じて参加者と楽しく交流する“ボランティアデイ”や、かものはしの現地での活動を理解するためのカンボジアへの“スタディツアー”などのイベントを行ってきました。他にも、“企業への助成金獲得申請”や“ECサイト・会員データベース開発”など、メンバーのスキルを活かしてかものはしに貢献するプロジェクトも行ってきました。



【上】かもカフェ！主催「みやじ豚BBQ」約50名の方に参加いただきました。
【右下】【左下】1回開催の「ボランティアデイ」で草製品のカビ止め作業。



2011年度総会での集合写真

カンボジアスタディツアー を3回開催

2012年度には、3回のカンボジアスタディツアーを開催しました。社会人の方を中心には、合計で28人にご参加いただきました。参加者からは、「カンボジアに実際に足を運び、コミュニケーションファクトリーの女性の笑顔に出会うことができ、非常に嬉しかったです。また、自分が日頃から関わっている日本での支援やボランティアが現地で実を結んでいることが見え、これからも応援し続けようと思いました！」や、「今回のスタディツアーはとても良い学びの機会でした。事前に「子どもが売られる問題」やカンボジアについては勉強していましたが、現地で夜遅くまで参加者の皆さんとワークショップをすることで理解がより深まりました。」といった感想がありました。また、株式会社H・I・Sさま主催のツアーや、数多くの方にカンボジアのコミュニケーションファクトリーにお越しいただき、中には帰国後、かものはしのインターンシップに参加したり、会員になつてくださる方もいました。今後は、インドでのスタディツアーも開催したいと思います。

今後の展望 1 3つの重点施策の推進

【1／個人会員拡大戦略の推進】
【2／公的機関との提携・連携への挑戦】
【3／多様な寄付のカタチの提示】

結果、2013年度に1億4千万円、2015年度には2億2千万円の資金調達を実現します。
今後の展望 2
「認定NPOの取得」「NSRの実践」による組織基盤の強化
【*NPOの社会的責任】

寄付者・会員の皆さんのが税制優遇を受けられる「認定NPO」となるための挑戦をします。また、「CSR（企業の社会的責任）」のNPO版である「NSR（NPOの社会的責任）」を果たすために、監査機能の強化、各種規定の整備、環境保護の取り組み、関係者のより一層の巻き込みなどを検討・実践いたします。詳細につきましては、38～39ページをご参照ください。

【1／個人会員拡大戦略の推進】
引き続き個人支援者を集めることを大切にし、日本国産の国際協力分野NPOではトップクラスの規模にします。
【2／公的機関との提携・連携への挑戦】
外務省やJICAといった公的機関と提携・連携し、かものはし単体では持ち得ない力をお借りし、問題解決を進めたいと思います。
【3／多様な寄付のカタチの提示】
多様化している寄付のあり方に柔軟に対応し、関わる全ての「仲間」がHAPPYを感じられるよう、多様な参加の方法を考えていきたいと思います。

『ファンドレイジング（資金調達）ではなく「フレンドレイジング（仲間集め）』

ゆるかも 学生ボランティアコミュニティ

ゆるかもは、かものはしの活動理念に共感し、かものはしのサポートを行い、活動する学生団体です。今まで関東だけで活動していましたが、2012年に関西支部が立ち上りました。私たちは学生の立場からできることを行い、問題解決に向けて日々取り組んでいます。

ゆるかも 活動人数:15人程度

ゆるかもは“気軽に楽しく国際協力”をモットーに活動しています。料理教室や啓発イベントを行ったり学園祭に出店したりすることにより得た収益金をコミュニティファクトリーの女性の支援のために使っています。その他にもかものはしの講演会のお手伝いやスタディツアーも行っています。

活動内容

2012年 4月 PARACUP、新歓
5月 戸塚まつり
7月 サンド会
9月 カンボジアスタディツアー
10月 グローバルフェスタ
12月 クリスマスパーティ など

ゆるかも関西 活動人数:10人程度

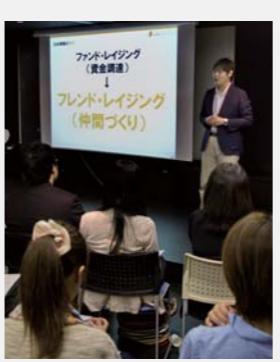
ゆるかも関西は、2012年6月に設立したばかりの関西支部です。「アジアの子どもが売られる問題をゼロにする」ことを理念に、大学生を中心に社会人の方や高校生も交えて活動しています。国内の啓発活動に最も注力しており、大学生や高校生にむけて「授業プレゼン」と称して隨時出張講義をしています。

活動内容

2012年 6月 ゆるかも関西設立
10月 グローバルフェスタ
12月 授業プレゼン&クリスマスパーティ
2013年 1月 活動理念・方針の見合わせ
2月 ワンワールド・フェスティバル、
スタディツアー（カンボジア・インド）など



NPOでは、活動に必要な資金を集めることを「ファンドレイジング（資金調達）」と言います。しかし、私たちがこの言葉がしつくりさせていません。だから、私たちは団体内では「フレンドレイジング（仲間集め）」という言葉を使っています。つまり、私たちが本質的に集めたいものは「お金」そのものではありません。一緒に「子どもが売られない世界」を作ろうとしてくれる「仲間」です。「仲間」には、寄付者・会員・ボラティア・プロボノ・インター生・スタッフなど様々なカタチがあります。どの人もミッショントを実現するためには欠かせません。どんなカタチでもいいので、皆さん自身がHAPPYだと思えるカタチで仲間でいていただけだと嬉しいです。



かものはしについて！

もっと
くわしく！

評議員・顧問



国際NGO
元カンボジア駐在員
石関 正浩さん



アジアン・ベンチャー・
フィナンソロビー・ネットワーク
日本アドバイザー
伊藤 健さん



株式会社ファンドレックス
代表取締役
鶴尾 雅隆さん

共同代表3名のうち2名が海外駐在し、インドにも展開。共同代表が、現場の状況把握をできることは強みです。団体ビジョンに向かって、試行錯誤を繰り返しながらも、確実に一步一歩近づいていると確信しています。

今年のかものはしプロジェクトがカンボジアから活動の範囲を広げたインド。現地で直接プロジェクト実施するのではなく、現地団体への資金提供・活動支援で、社会課題サイクルへの変革をもたらす取り組みに期待しています。

ファンディングは、一緒に解決を考え、行動する仲間づくりのプロセスです。支援者拡大のプロセスで、自分たちの「得意型」を合理的・論理的に分析して形成しているところは、他の団体の模範もあります。



有限会社アルゴソフト
代表取締役
岡崎 邦明さん



職業経営者
小城 武彦さん



株式会社カンドゥージャパン
代表取締役
越 純一郎さん

世界の環境は大きく変化しており、適応できるものが生存繁栄します。固く信じて疑わない「思い込み」と、従来のやり方を捨てる「思い切り」の両方により、新分野でも成功を期待しています。

2012年は、インドでの活動が始動した年となつた。カンボジアでの経験をインドにどのように活かしていくのか。かものはしプロジェクトらしい事業の展開を期待したい。2013年は新たな課題へのチャレンジの年となるでしょう。

一人が世界を変えるとも言うが、一人から世界が変わるとも言うとの村田さんが紹介してくれた言葉を、私は自分の支えにしています。



静岡文化芸術大学 教員
下澤 嶽さん



NPO法人 ETIC. 事務局長
鈴木 敦子さん



経営コンサルタント
高橋 義孝さん

インドへの活動拡大にあわせて、カンボジアのこれまでの活動の再編成が進んだ年だと思います。カンボジアの経験値をどのように印度に活かせるか。そこがこれからは試されていくと思っています。ガンバレ!!

2012年度も、かものはしプロジェクトはしっかりと歩んでいました。インドでの活動をいよいよ本格化すること、カンボジアでの事業は次のステージに向かっていることなど、2013年度も活躍を期待しています！

カンボジアでの事業の展開が進み、インドでの活動が本格的に始まり、日本国内での認知度を上げ、地道に会員数を増やすことが出来た、よい1年だったのではないかと考えます。



プライスウォーターハウスクーパース株式会社
パートナー
田作 朋雄さん



種口公認会計士事務所 所長
兼 早稲田大学大学院 講師
種口 哲朗さん

数々の難題を克服しながら、カンボジアに統いて印度での活動を定着させつつある活力には脱帽の思いです。活動内容のみならず、そうした積極的姿勢を示す行為も、社会に対する垂範になっているものと確信しています。

かものはしプロジェクトはスピーディーかつ戦略的。2012年度はカンボジア事業の現地化、そして、さらにハードルの高い印度の社会問題を解決すべく、綿密な会合を繰り返す。応援したくなるNPOです。

※五十音順

報告書の制作に関わってくださった方々



フォトジャーナリスト
安田 菜津紀さん



フリーランスコピーライター、ライター
永井 順子さん



読売新聞社／記者
服部 牧夫さん

studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。1987年神奈川県生まれ。

日大芸術学部文芸学科卒。(株)リクルート、(有)イーを経て2004年よりフリーランスコピーライター、ライターに。2012年よりかものはしプロジェクトにプロボノ参画。

東京工業大卒。読売新聞記者として科学技術や医療を取材する。学生時代にフィリピンの水環境を研究した経験から、途上国支援の思いを抱く。2012年よりプロボノに参画。



ブランド経営ストラテジスト
坂之上 洋子さん



サイ株式会社
Sai company
アートディレクション／グラフィックデザイン／制作ディレクション
サイカンパニー(生駒 浩平さん／平田 雄一郎さん)
NPOや企業のクリエイティブ業務を中心としたデザイン会社。
広報や制作のご相談はhello@saicompany.jpまで。

皆さまからの応援メッセージ



若い人たちが情熱を持って活動していることに心打たれました。

【寄付者】
村上 裕康さん、歌子さん

村田さんは学生の時、カンボジアに行き「子どもが売られる問題」の実態を目のあたりにした激しい想いが、その後の活動の原点になっていると聞き、村田さんおよび彼女と想いを共にする仲間たちとともにかものはしプロジェクトの活動に感激しました。彼らの活動に、情熱、独創性、感性、共感、自主性、優しさを感じます。このような活動をする若者たちが日本にもいるのだと感心しました。我々の応援が、かものはしプロジェクトの活動の一助になればと思います。



活動の応援ができることを、社員みんなが誇りに感じています。

【法人寄付】
ワタベウェディング株式会社
代表取締役社長
渡部 秀敏さん

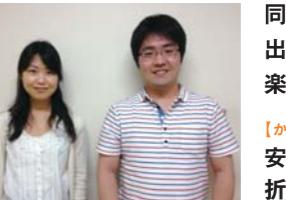
以前よりかものはしプロジェクトさんをご支援されていた、オムロン創業者一族の立石知雄様よりご紹介いただき、こちらの活動を知りました。村田代表の話を聴かせていただき、他国で過酷な状況に置かれている人々を支えたいというその情熱と行動力に心動かされ、わずかでもお力添えが出来れば応援しております。この素晴らしい活動に従事する日本の若者がたくさんいらっしゃること、またその皆さんを少しでも応援できることを、社員みんなが大変誇りに思っています。



若者の熱心な活動に感動し、家族で応援しています。

【サポート会員】
西内 多恵子さん

先日、ロータリークラブさんの例会に参加した息子が、「すごく感動した!こんな団体があるんだよ」と、かものはしプロジェクトさんの話を熱く語ってくれました。私と娘も興味を持ち、活動説明会に参加したところ、息子や娘とあまり年の変わらない方が、子どもたちを守るために、人生をかけて熱心に活動していることに心から感動し、その場で私と娘でサポート会員になりました。家族で応援しています!



同じ志を持つ仲間との出会いがあり、楽しく活動を続けています。

【かもカフェ】
安藤 昭太さん
折笠 依理子さん

かものはしプロジェクトでボランティアをしていると、業界・年齢の垣根を越えて、思いを共有できる素敵な仲間にたくさん出会えます。そんな仲間と問題の解決へ向かって意見を交わしながら、自分の見識・価値観を広めるチャンスもたくさんあります。いつの間にか、かものはしの魅力にどっなりはまり、「趣味はかものはしプロジェクトです!」と言いたくなるほど、無くてはならない生活の一部になっています。

企業との主な連携事例

パナソニック株式会社様

ソーラーランタンのおかげで
コミュニティファクトリーの作業効率が向上しました。



パナソニック株式会社様のソーラーランタン70台をカンボジアのコミュニティファクトリーに寄贈いただきました。電気が通っていないコミュニティファクトリーでは、曇天時や夕方の暗くなる時間帯の作業が困難でした。しかし、ソーラーランタンを導入後、暗い時間での作業も可能となり、働く女性たちのストレスや眼精疲労が解消され、仕事の作業効率も向上しました。

リシュモン ジャパン株式会社様(クロエ (Chloé))

ブレスレットの売り上げの一部を
ご寄付いただきました。



クロエ (Chloé) のチャリティ活動「5-Color Charity (ファイブ・カラー・チャリティ)」の第 5 弾、「Chloé pink (クロエ ピンク)」に
かものはしを支援先として選んで頂きました。2013年1月15日から
全国のクロエ ブティックにて発売
された限定のレザーブレスレット
の売り上げの一部を、ご寄付いた
だきました。

株式会社バリューブックス様

読み終えた本を22,733冊、
のべ305の方に寄付いただきました。



自宅や会社で読み終えた本を、
株式会社バリューブックス様に
送っていただくと、その買い取り
相当額が寄付になる「ほんのかけ
はし」を2012年11月からスター
トし、2013年3月までに合計
22,733冊、のべ305の方にお
送りいただきました。

株式会社ラッシュジャパン様

「チャリティポット」の売上げを
寄付していただきました。



『チャリティポット』(全額寄付商
品)の発売5周年を記念して、1ヶ
月間の『チャリティポット240g』
の売上げを、各LUSH店舗の応援
する団体への寄付となる「マイ
ショップチャリティ」にて、かもの
はしを支援先として選んでいた
だき、全国48店舗のLUSH店舗に
応援していただきました。(対象期
間:2013年1月1日~1月31日)

2012年度メディア掲載・受賞歴



2012年 9月 テレビ東京系「地球VOCE」／第123回「この手で子どもたちを守りたい！」
11月 BS12ch TwellIV「高田純次のアジアぶらぶら」／「#4カンボジア編①」
2013年 3月 テレビ東京 特番／「社会の役に立つ仕事を創る！」 など



2012年 11月 読売新聞夕刊／「ラウンジ」
12月 朝日新聞夕刊／「『窓』論説委員室から」
2013年 2月 朝日新聞夕刊／「『窓』論説委員室から」
3月 日経電子版／「アジアTrend」 など



2012年 6月 日経ビジネス／「旗手たちのアリア」
12月 シナジー／「NGOで働く」
12月 ファンドレイジングジャーナル／「ファンドレイザーたち」
2013年 2月 ソトコト／「社会を変えるNPOのアイディア集」
3月 ピックイシュー／「Panasonic NPOサポートファンド」
3月 エル・ジャポン／「あなたの身近にある、新しい一歩」 など



2012年 11月 全国商工会議所女性会連合会 『女性起業家大賞』
2013年 3月 日経ソーシャルイニシアチブ大賞 国際部門賞 『ファイナリスト』選出

かものはしを支えてくださった企業・団体の皆さん

アサガミ株式会社

新日鉄住金エンジニアリング
株式会社

帝國製薬株式会社

有限会社ナーチャ

特定非営利活動法人
ネットワーク『地球村』

三井住友銀行ボランティア基金

青山リアルティー・アドバイザーズ株式会社

アサヒワンビルクラブ

株式会社伊藤事務所

インフォテリア株式会社

株式会社HRインスティテュート

M&ADインシアランググループ

ホールディングス株式会社

柏木建設株式会社

かながわ湘南ロータリークラブ

川越中央ロータリークラブ

川崎南ロータリークラブ

感激相続株式会社

キューピー株式会社

有限会社居宅介護支援事業所・愛101

KDDI株式会社

国際ソロプチミスト東京-東

認定特定非営利活動法人さいたまユネスコ協会

株式会社シービーエム

次世ノハシ

VGホールディングス株式会社

ALSOK
綜合警備保障株式会社(ALSOK)

東京南
ロータリークラブ

公益財団法人
日本国際協力財団

PARACUP
世界の子どもたちに届くRUN
一般社団法人PARACUP

株式会社メディエイター

株式会社ジャクバ

一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

住友生命保険相互会社

世田谷聖母幼稚園

泉工医科工業株式会社

全国商工会議所女性会連合会『女性起業家大賞』

有限会社ソーシャルベンチャーキャピタル

アソシエーション

有限会社ゾルゾ

捐贈ジャパン「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」

公益財団法人人大和証券福祉財団

高圓産業株式会社

有限会社テニスピアジュエ

株式会社天山

所沢東ロータリークラブ

株式会社図書館流通センター

株式会社永屋

一般社団法人日本弱酸性美容協会

Kamenori
公益財団法人
かめのり財団

公益財団法人
ソロプチミスト日本財団

公益財団法人トヨタ財団

一般財団法人
日本メイスン財団

ASIA GROUP
不動産の
アジアグループ

株式会社ラッシュジャパン

日本電算機販売株式会社
ハウジングスカイ株式会社
株式会社バリューブックス ほんのかけはし
ヒューマンズ・ネット株式会社
プラス株式会社
有限会社プラチナ
株式会社古木企画
ヘンミ計算尺株式会社
株式会社松尾商行
株式会社マルアイシステム
有限会社洋庫
横浜南ロータリークラブ
株式会社アライズ
株式会社リコー 社会貢献クラブ「FreeWill」
株式会社リンクマックス
有限会社ロイヤルガーデン
ロングブラックパートナーズ株式会社
ワタベウェディング株式会社

技術協力

アクシスソフト株式会社
特定非営利活動法人クロスフィールズ
サイ株式会社

さとわ社会保険労務士事務所
株式会社セールスフォース・ドットコム
セールスフォース・ドットコムファンデーション

パナソニック株式会社
株式会社アライズ

※五十音順・敬称略 ※10万円以上の支援をいたしている法人様を掲載しております。



財務会計報告・計画

2012年度報告

カンボジア・インドでの事業展開を 日本の「資金調達」が順調に支えることができた

「収入」は1億545万円と目標に対し102%と上回り、「支出」は9,970万円と計画より95%に抑えることができた。結果、「収支」が-223万円の計画であったところ、575万円となり、当面の活動を推進するのに必要な資金を確保できた。

「収入」は、「会費収入・寄付収入」が、2012年度に新たに656人の方に入会いただくことができ、また大口の寄付をいただくことができ、ほぼ計画通りに終えることができた。とくに「個人会員」が約2,900人となり、より安定した財源となっている。このことにより、安心して、現地で新しい活動を始めることができている。

「支出」が下回ったのは、予算時には「1\$=90円」で計算していたところ、決算為替が「1\$=83.32円」となり、為替相場の変動が大きな要因。ただし、それを除いても、ほぼ計画通りの収支結果となった。今後は、団体の財政規模が大きくなつたため、為替リスクを最小限に抑える対応策を検討し、実施する計画で進めている。

「コミュニケーション事業」は、カンボジア国内の売上は好調に伸びた。一方で、日本側での販売が体制未整備のため未達に終わった。なお、カンボジアで直営店舗を新たに開店したため、貸借対照表に「土地使用権」として、526万円を資産計上している。

「インド事業」は、現状の資金調達見通しおよびキャッシュの状況を鑑み、追加の支援を行った。

なお、2011年度末をもって解散した「IT事業」の「支出」については、IT事業職員の賞与の支払い分を今期に計上しているため。

2013年度計画

問題が深刻なインドでの事業を積極的に拡大するため、 収支は赤字となるが、中長期的には支障がない

「収入」は1億4,418万円と前年度に対し142%とし、「支出」は1億5,247万円と前年度に対し153%となる。結果、「収支」が-828万円となる計画である。収入・支出ともに大幅に増加する理由を以下に説明をする。

とくに「インド事業」を推進するために、現地事務所の開設、新規スタッフの雇用、現地パートナー団体への支援拡大など、支出を大幅に増やす。慎重に財務的に検討を重ねたが、今まで蓄積してきたキャッシュがあること、2014年度以降、収支が再び黒字化する見通しが立っているため、団体運営の継続性に支障はないと考え、決断をした。

「コミュニケーション事業」は、さらに収入を伸ばすため、多店舗展開を行う。また、2013年度から現地化・自立化を推し進めるために、コミュニケーション事業とカンボジア事務局に関しては、財務的な自立を促していく。

「会費収入・寄付収入」など日本での資金調達については、引き続き、「個人会員」の拡大を主軸に置いて進める。新規入会者数の伸びを安定して見込める状態になっており、約2,900名の会員数を約3,450名に増やす。さらに2013年度より、「助成金・委託金」の獲得にも力を入れる。「助成金・委託金」はそれらへの依存度が高くなると、継続した団体運営に支障がきたす場合があるが、全体の20%未満であれば積極的に活用すべきだと考えている。

We are the Kamonohashi Staff 2012-2013

Looking back another year of change



理事長
村田 早耶香



副理事長
本木 恵介



副理事長
青木 健太

2012年度は団体として100回以上講演を行い、たくさんの方に直接話を聞いていただきました。そこから仲間になつてくださる方が増え、とても嬉しい思っています。2013年度は、インドでも子どもたちを守るために、更に多くの方に売られる子どもの問題について知っていただき、ぜひ出来る範囲でご協力いただけたらと思っています!

毎日カレーな生活は大丈夫なの?とよく聞かれますが、米がある限りは大丈夫だと確信を得た一年でした。下痢に悩まされる生活に慣れた一年でもあります。全く違う文化であるインドでの生活は、私個人にとって多くの学びと楽しみがあります。インドで頑張ります! インド(ムンバイ)にいらっしゃる方はご一報ください。

おかげさまで2012年度にカンボジアの事業は大きく成長できました。特に雇用する村の女性たちにとって必要不可欠な事業へと成長してきたのはカンボジアのスタッフ、インターン・ボランティアの方々のおかげです。また、活動を支えてくれている日本事務所、支援者の皆さま、そして日本から僕を支えてくれている妻と娘に感謝します。



日本事業統括
ディレクター
山元 早太



経営企画・
管理担当
マネジャー
朝岡 真央



広報担当
マネジャー
小畠 瑞代



カンボジア連携
(警察支援)
担当マネジャー
田中 香苗

2月に初めてインドに行き、元被害者の女の子たちに会いました。話を聞けば聞くほど、この問題は悲惨で、大きくて、複雑で、難しくて…途轍もない壁のように感じて、自身の無力さにとても氣分が沈み込みました。でも、一方で「希望」を感じる場面にも立会いました。そして、日本でも多くの仲間(支援者)の皆さんとお会いすると同じような「希望」を感じます。これからも一緒に歩んでください。

2012年度はインドとカンボジアに訪問し、笑顔ではらくコミュニケーションファクターの女性や被害者の女の子たちと出会いました。一人でも多くの女の子が自ら選択できる人生を生きられるよう、活動拡大につながる日本事務所とその組織基盤強化にいっそうの力を注いでいきたいと思います。応援してください。皆さまの力の結集であるかものはしを、今年度もよろしくお願いします。

大学院修了後、省庁や国際人権NGOの仕事を経て、2012年8月末にかものはしプロジェクトに入職しました。主にカンボジアを拠点に警察支援事業や関係団体との連携・調査事業を担当しています。皆さまの「想い」が詰まったご支援が、どうすれば問題解決に最も効果的・効率的な形で現場に届くのか、このことを常に考えながら、引き続き全力で活動していきたいと思います。

【スタッフ】

太田 有紀子/亀山 菜々子/川田 由香/川名 晴子/清水 友美/野溝 明子/野村 夏子/森 ジェニファー かすみ/吉田 祥

【アソシエイト】

清水 梢/谷口 香津郎/飯田 将嗣/橋本 裕保/横山 優里

【インター】

金田 麻希/織田 大樹/高取 真尚/堀井 康弘/川添 寛喜/前埜 孝枝/林 美美代/高橋 大介/壱岐 朔巳/瓜生原 琢実/七戸 望

島袋礼菜/齊藤 紘輔/甲斐 雄一郎/工藤 充宏/佐藤 純香/野原 直路/照井 友樹/岩崎 佳恵/森山 翔太/川口 沙希/黒川 京子

中村 麻梨奈/鎌倉 さおり/田中 將介/宮川 友希

【かもカフェ!リーダー】

齋藤 直毅/安藤 昭太/福留 圭祐/折笠 依理子/加藤 政樹/清田 一成/吳 哲煥/澤田 康介/宮本 純理

【ゆるかも代表】

ゆるかも 鎌倉 さおり/米山 邑香 ゆるかも 関西 谷 杏奈



財務・経理・
総務部門
マネジャー
トート



ソーシャル
エンパワーメント部門
マネジャー
オン



営業部門
マネジャー
モリカ

総務部門は、予算管理や、会計日報、総務実務やボリサーの整備といった面で2011年度から成長することができました。また、より信頼性が高く、説明責任を果たせる組織を目指し、国際会計基準に沿った会計システムの構築にも励んできました。2013年度は、さらによいシステムを作っています。スタッフの能力強化やボリサー等には特に注力し、組織の成長にふさわしい体制を築いていきます。

2012年度、ソーシャルエンパワーメントチームは2011年度よりも良い結果を出すことができました。女性たちのキャバシティビルディングのための様々なトレーニングやワークショップが、実を結び始めている結果だと実感しています。今後もしっかりと女性たちのケアにあたり、自立をサポートできるよう励んでいきます。日本の支援者の皆さんにはとても感謝しています。これからも応援し続けてください。



生産部門
マネジャー
ボラ

生産管理部門は2012年度、大きく成長することができました。2011年度までは急成長する売上げに生産が追いつきませんでしたが、2012年度は売上げ需要にも到達することができました。支えてくれた、すべてのスタッフ、女性たちに感謝しています。2013年度はまたチャレンジングな1年になると思います。コスト削減や生産性改善、清潔な環境作りや技術向上など、生産システムや管理の改善に励んでいきます。

【財務・経理・総務部門】
【生産部門】
【ソーシャルエンパワーメント部門】
【営業部門】
【パートタイム】

ソビアップ/ブンナット/ソバンナ/キムホン/マライ
サイヨン/ソバン/サバン/ホン/ベン/ブレア/レップ/ソン/ヴァニー
ブンリー/ソチエット/ブッティ/ソッケン/ソベック
マオ/チャンレイ/コムソット/レック
カニカ/チャンナ/ポンロック/セレイ

有給スタッフ:日本人/11人 カンボジア/31人(2013年6月現在)



貸借対照表

2013年3月31日時点

(単位:円)

科目	金額
1 流動資産	
現金預金	53,264,249
商品	1,296,179
製品	5,812,629
原材料	489,717
仕掛品	0
売掛金	628,745
立て替え金	17,913
未収入金	308,900
仮払金	0
短期貸付金	81,661
前払費用	1,222,519
流動資産合計	63,122,512
2 固定資産	
車両運搬具	119,425
建物	352,984
土地使用権	5,266,800
固定資産合計	5,739,209
3 投資その他の資産	
差入保証金	826,140
	826,140
資産合計	69,687,861

中長期方針

「個人会費」と「助成金・委託金」を中心に収入を拡大し

「インドの事業拡大」と「カンボジアの現地化・自立化」を推進する

「収入」は2015年度には2倍以上の2.2億円を目指す。とくに財源としての安定性の高い「会費収入」を伸ばし、2015年度には会員数5,000人を目指す。また、「助成金・委託金」の獲得にも挑戦し、2015年度には3,700万円の獲得を目指す。

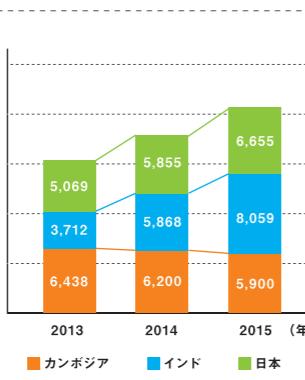
「支出」は2015年度には2億円を超えるが、収入計画通りに進めば支障がない。カンボジアへの支出は、「コミュニティファクトリー事業」・「カンボジア連携」の現地化・自立化を進めるため、段階的に減少する。逆に「インド事業」への支出は、問題の規模・深刻さを考えると、事業規模が必要になるため、大幅に拡大する。そのため、資金調達の成長が急務である。

なお、有給職員の平均年齢が30歳を超え、結婚・出産などを迎え、ライフステージが変わってきてている。そのような中、組織全体としても持続可能な運営をするために、適切な給与水準になるよう、段階的に実現していく。

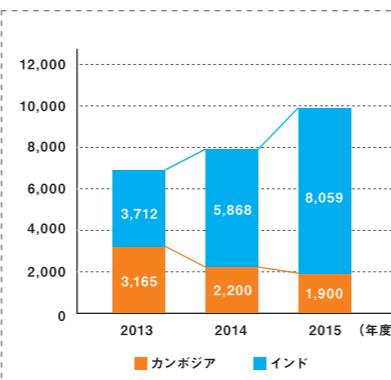
財源別収入推移計画(単位:万円)



国別支出推移計画(単位:万円)



現地国別実質支出推移計画(単位:万円)



収支計算書

2012年4月1日～2013年3月31日

(単位:円)

科目(経常収支の部)	2011年度 実績	2012年度			2013年度	
		計画	実績	対計画達成率	計画	対前年度成長率
I 経常収入の部						
1 会費・入会金収入						
会費収入	39,483,860	43,406,355	43,540,500	100.3%	57,709,000	132.5%
2 寄付収入	26,675,457	30,242,501	35,794,144	118.4%	33,500,000	93.6%
3 事業収入						
(1) コミュニティファクトリー事業収入	6,846,297	16,568,000	13,733,442	82.9%	32,729,000	238.3%
(2) スタディツアーア事業収入	936,638	1,000,000	459,500	46.0%	800,000	174.1%
(3) システム開発事業収入	27,200,027	0	3,570	-	0	-
(4) 啓発事業収入	1,250,650	3,272,000	3,489,051	106.6%	5,400,000	154.8%
4 補助金等収入						
民間助成金収入	1,770,567	8,750,000	5,127,980	58.6%	14,000,000	273.0%
5 その他収入						
利息収入	15,269	0	16,406	-	0	-
雑収入・為替差益・固定資産売却益	977,429	0	3,286,837	-	46,000	1.4%
経常収入合計	105,156,194	103,238,856	105,451,430	102.1%	144,184,000	136.7%

II 経常支出の部		2012年度			2013年度	
		実績	計画	実績	計画	対前年度成長率
1 事業費						
(1) コミュニティファクトリー事業費	16,058,020	25,511,000	23,303,892	91.3%	42,050,000	180.4%
(2) カンボジア連携事業(警察支援・孤児院支援)	6,261,225	10,460,000	8,078,232	77.2%	13,349,000	165.2%
(3) インド事業費	3,744,741	17,064,000	22,387,792	131.2%	37,121,000	165.8%
(4) 啓発事業費	17,646,691	27,443,000	21,893,800	79.8%	31,775,000	145.1%
(5) ソフトウェア開発事業費	22,580,172	0	2,075,795	-	0	-
(6) スタディツアーア事業費	591,625	240,000	334,547	139.4%	518,000	154.8%
2 管理費(カンボジア事務局、日本事務局)						
給料手当／業務委託費／研修費	8,787,703	9,562,000	9,642,483	100.8%	12,641,000	131.1%
水道光熱費	820,972	288,000	648,173	225.1%	652,000	100.6%
消耗品費	1,371,989	1,126,000	1,437,737	127.7%	1,393,000	96.9%
通信運搬費	996,548	576,000	1,204,224	209.1%	843,000	70.0%
印刷製本費／広告宣伝費	3,072,305	1,200,000	756,262	63.0%	761,000	100.6%
租税公課(法人税)	1,281,339	1,048,000	408,991	39.0%	660,000	161.4%
営業外損失(雑損失、為替差損)	6,357	0	51,877	-	0	-
その他	11,367,339	10,959,000	7,757,619	70.8%	10,703,000	138.0%
経常支出合計	94,587,026	105,477,000	99,981,424	94.8%	152,466,000	152.5%
経常収支差額	10,569,168	-2,238,144	5,470,006	-	-8,282,000	-

III その他資金収入の部					
その他の資金収入合計	0	0	0	-	0

IV その他資金支出の部					
1 前期損益修正損	0	0	890,150	-	0
その他の資金支出合計	0	0	890,150	-	0
当期収支差額	10,569,168	-2,238,144	4,579,856	-	-8,282,000
前期収支差額	49,053,612	59,622,780	59,622,780	100.0%	64,202,636
次期収支差額	59,622,780	57,384,636	64,202,636	111.9%	55,920,636

収支計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人かものはプロジェクトの収支状況および財政状態を正しく示していると認める。

野 雅



かものはしの 「社会的責任」への 取り組み

「企業」だけでなく、「NPO」も 「社会的責任(ISO26000)」を果たす時代

「社会的責任」という言葉をご存知でしょうか。企業の社会的責任を意味する「CSR」だけでなく、あらゆる組織の社会的責任についても、社会の注目が集まっています。NPO／NGOの社会的な役割が高まるにつれ、私たちも社会の一員として、積極的に責任を果たしていく姿勢が問われています。

かものはしでは、すべての組織の社会的責任に関する国際的なガイド文書であるISO26000について、他のNPO／NGOと共に自らの団体運営にも照らし合わせる勉強会を開催してきました。そして、2013年度よりISO26000が示す枠組みに従って、かものはしの社会的責任への取り組みについて、中核的な課題への取り組み方針をご紹介します。

より持続的に問題解決に取り組むために、しっかりと「社会的責任」を果たすことが大切だと考え、先進的な取り組みではありますが挑戦していきたいと思います。

**組織基盤強化のために、
定量化、しくみ化、発信を！**

企業が社会責任を問われ、積極的に取り組みを進めつつある今、私たちNPOも、自らの社会責任を認識し、取り組み、その経過・実績や課題を発信することは、企業や市民からかもののはしが、自らの社会責任に取り組む意義とともに、それが義務ではなく、組織基盤強化に結びつくことに気付いて動き出したことに、敬意を表します。

今回の「報告」は、これまでの実績を定量的に開示するものではなく、今後の方針や考え方を示したもの。これを、初期の狙い通り、組織基盤強化とするためには、役職員やボランティアの皆さんに状況を正確に把握できるよう、すべての項目を定量化することが有効です。また、個人の心がけや努力に依存しないよう、組織として規則や手続きを決めるなどの、しくみ化も大切です。そして、課題も含めて、率直に開示・発信することが、信頼の向上に繋がります。

2013年度に実施予定のかものはしの「社会的責任(ISO26000)」の取り組み

中核課題	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 組織統治	●役職別分掌規定の改定 ●行動規範の制定 ●公認会計士の監事就任 ●契約書の一元管理 ●外部理事の就任	●各種規定＆マニュアルの一元管理 ●正会員規定の整備 ●ボランティア成果の可視化	●会員アンケートの定期実施	●弁護士の監事就任
② 環境	●環境配慮製品の活用 ●エアコンの温度設定の徹底 ●待機電力OFFの徹底 ●ゴミの分別の徹底 ●印刷のデフォルト設定 ●紙媒体での郵送物の削減	●簡易包装の実施 ●カンボジアで天然染料の導入	—	—
③ 勞働慣行	●適切な昇給の実現 ●セクハラ・パワハラ相談窓口の設置 ●定期フィードバック面談の開催 ●インターん保険の加入	●海外渡航時に予防接種の補助適用 ●契約書・機密保持契約の取り交わしルール整備	●災害発生時の対応マニュアルの整備 ●定期的な防災訓練の実施	—
④ 人権	—	—	●広報ガイドラインの制定 ●個人情報保護ポリシー・リストの作成・共有 ●プロテクションポリシーの明文化	—
⑤ 公正な事業慣行	●購買ルール・体制の改善	●倫理規定の制定	●インターナルオーディター（内部監査役）採用の検討	—
⑥ 消費者課題	●コミュニティファクトリー商品にデメリット表示をする	●電話対応力強化研修の実施	—	—
⑦ コミュニティ参画・開発	●週1回事務所周辺の清掃活動	—	—	—

かものはしで取り組むISO26000、7つの中核主題

1 組織統治

意思決定プロセスと構造

組織を運営するのに必要な最低限の規定・マニュアルは存在していましたが、不足しているものや明文化されていないものもあったため、それを作成・整理いたします。また、理事会、監事体制の強化を実施し、より適切な団体運営ができる体制を構築します。

2 環境

汚染予防、持続可能な資源の使用、気候変動の緩和と適応、環境保護と自然生息地の回復

自然環境への負荷を極力軽減するため、環境配慮製品の活用、エアコンの温度設定の徹底、待機電力OFF運動などを行います。また、支援者の皆さまへ郵送する紙媒体資料の削減にも努めますので、ご理解のほど宜しくお願いします。

3 労働慣行

雇用と雇用関係、労働条件と社会的保護、社会的対話、労働における安全衛生、職場での人材育成・訓練

職員・インターン生・ボランティアがより自分らしく働く環境を作るために、各種相談窓口の設置や適切な昇給を実現します。また、職員の安全を守るために、災害発生時の対応をマニュアル化し、定期的に防災訓練を実施いたします。

5 公正な事業慣行

汚職防止、責任ある政治的関与、公正な競争、バリューチェーンでの社会的責任の推進、財産権尊重

汚職の多い途上国で活動しているため、特に職員や賄賂に対するポリシーをまとめた倫理規定の明文化やカンボジアにおいて内部監査役の採用を検討し、法令を順守した事業活動を行います。また、購買ルール・体制を改善し、健全な取引を継続して行えるようにいたします。

6 消費者課題

公正なマーケティング、事実に即した偏りない情報、公正な契約慣行、消費者の安全衛生保護、持続可能な消費、消費者へのサービス、支援、苦情・紛争の解決、消費者データ保護、プライバシー、必要不可欠なサービスへのアクセス、教育と意識向上

必要に応じて、い草商品へのデメリット表示の実施、支援者からの問い合わせに適切に対応できるようにするための訓練を実施いたします。

7 コミュニティ参画・開発

コミュニティ参画、教育と文化、雇用創出と技術開発、技術開発、最新技術の導入、富と所得創出、健康、社会的投資

定期的に事務所周辺の清掃活動を行い、地域への感謝と貢献を形に表します。

7つの中核主題イメージ

